堅実な守り・・・確かな勝利。

もし、ブラザーという企業をプレイヤーにたとえたとしたら、それは静かな闘志を内に秘めた、シャープなゴールキーパー。———はげしい企業競争の中でブラザーがひとつの地位を得ているとすれば、そんな精神があらゆる処で顔を出しているのかもしれません。

ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社

速　報

全日本女子「世界」へ5度目

イスラエルと東京で対戦、快勝

日本協会は第6回世界女子選手権アジア予選決勝・日本対イスラエル（2試合）戦を2月28日、3月2日の両日、東京都下の体育館で決行した。

この試合は、イスラエルに対する万が一の不穏な動きを警戒して一般には、試合の日時、会場などをいっさい知らせぬという日本スポーツ史上初の「ドアー・クローズドゲーム」として行われた。

治安関係者が要所で目を光らせる会場へ警備車に守られたイスラエル選手団のバスが着き、迎える場内は100人近い報道関係者が居るだけという異常さ。

拍手も歓声もなくカメラマンの押すシャッターが唯一の〝音〟。選手たちの表情も、こわばり勝ちだった。

日本は、Aゾーン予選のための韓国遠征（2〜5頁参照）から戻って休む間もない連戦、しかも緊迫ムードのあおりをうけて、持ち前の鋭さに欠けたが、このシリーズが女子として初のナショナルマッチというイスラエルは、恵まれた身体を活かすだけの技と力がなく日本はAゾーンにつづく快勝。12月3日からの本大会（ソビエト・キエフ市）へ、順当にアジア代表として駒を進めることになった。

日本の世界選手権出場は5度目若い選手が多いだけに、今後の成長が大いに期待できる。

レフェリーはレイチェル、ロスマニスの西ドイツペアだった。

なお、イスラエルは、試合終了後しばらく滞在したあと羽田空港から帰国。

相手のミスから速攻決める

◇第1戦（2月28日）

日　本 19（10−3、9−1）4 イスラエル

＜日本＞GK・和田、渡辺、FP古佐原6、島田2、蔵田4、加藤0、額賀1、山下1、松下0、菊地4、河田1、紀野0

＜イスラエル＞GK・スタイガーH・コーン、FP・ローゼンバウム、グロス、イエルシャルミイ、ザカー1、ファンガーアビラム、I・コーン1、ケハ、ハイラ1、モスコビシ1

○……多くの苦悶に似た不安と期待を激突させて日本国内では初めての女子ナショナル・ゲームが異様なムードで開始された。

ヨーロッパカップには、参加している記録があるが従来イスラエル女子の国際試合経験は豊富なものではなくとりたてて警戒すべき要素は見当らぬという推論が百パーセント的中した結果に終った。大柄選手が多くかなりやるのではないかという声もあっただけに拍子抜けの感も大きかった。日本の前回の世界選手権出場者五人はよく他の選手と協同して、完全にイスラエルを圧倒した。若さと持久力、瞬発力などの基礎的要素とハンドボールセンスははるかにイスラエルを引きはなすものを持っていたがロングシュート力、体格を利して長いリーチからのフェントには若干の不安もうかがい知ることの出来る内容であった。イスラエルチームの平凡なミスを持ち前のすばやさでひろって速攻に転じ得点するケースが多かったが、これは初歩的な戦術の忠実な実行とは言い得ても、決してこれで甘んじて良いものではないことを銘記していただきたい。あまりにも相手が弱過ぎた結果なのである。19点の内7点が7MT、残る12点の内容はけしてよいものではなく、この面での充実にもっともっとつとめて欲しい。（光島磯雄）

◇第2戦（3月2日）

日　本 22（13−4、9−4）8 イスラエル

＜日本＞GK・和田、渡辺、FP島田4、蔵田4、古佐原5、額賀3、菊地0、山下2、加藤2、河田0、穂積1、松下1

＜イスラエル＞GK・スタイガーH・コーン、FP・ローゼンバウム、グロス1、イエルシャルミイ1、ザカー1、ファンガー4、アビラム1、コーン1、ケハ、ハイラ、モスコビシ

両チームとも、第1戦より動きがシャープとなり、序盤戦は好テンポの展開だった。

しかし、イスラエルは、オフェンスがまったく単調で、35才のベテラン・ザカーが秀れたキープ力から、なんとか突破口を開こうとするのだが、他の選手が動かず、じょじょに点差が開いていった。

日本は、固さがほぐれ、小さなミスも少くなって、まずまずのデキといえたが、後半になると、気のゆるみからか、再三のチャンスを逃していた。

相手の実力が判っていても、ナショナルマッチというものは、たえず厳しさがなければいけない。

この点で、今シリーズの日本選手には、物足りなさを感じた。

世界の上位を狙うには、いっそうのたくましさ、迫力を養ってもらいたいものだ。

なお、後半13分、ベンチ（イスラエル）のビダス・コーチが判定に対しヤジをとばしたところ、両審判員は容しゃなく、キャプテンに警告をマークした。試合後、ライヘル審判員は『ベンチにいる人間が、席から立ちあがり、コートに歩みかけてヤジをとばしたからだ。席に座ったままなら見逃してもいいのだが……』と云っていた。（滝口三郎）

やむを得なかった措置

日本協会・荒川清美理事長の話　現在の国際情勢や、世情を考えれば「観客不在」での開催もやむを得なかった。

イスラエルへの遠征は現況下ではとても無理だし、「棄権」することは、スポーツをそれこそ悲劇化してしまうものと判断した。

しかし、開催を決心したあともなんと情ないことになったのだろう、という気持ちがいっぱいだった。日本女子にとって、史上初の国内試合をファンの皆さまに見てもらえなかったことや、遠来のイスラエルにも淋しい想いをさせてしまって申し訳けない。

何時の日か、今回の判断が〝理解〟されることを望むとともに、報道関係者、会場提供者、宿舎、交通関係者及び治安当局の絶大なるご協力に心から感謝したい（3月2日・東京で。文責編集部）

日本、最初の関門も難なく通過

新鋭を揃えた全日本女子（安藤純光団長ら役員3選手15）は，若々しい力と技で“世界”へ一歩近づいた。第6回世界女子選手権アジア予選Aゾーンは2月9日から19日まで韓国・大邱市の慶北体育館に日本，韓国，台湾の3ケ国が集り2回総当り戦を行い，日本が4試合で118点をあげる猛攻をみせ全勝，難なく優勝を決めた。インドの棄権でBゾーン勝者となったイスラエルとのアジア代表決定戦をかけた試合は1頁速報のとおり行なわれた。

世界女子選手権アジア予選（Aゾーン）

日本、攻守に一枚上の力

第1次リーグ

日本の第1戦・台湾との1回戦は、大会第2戦として2月11日午後4時から行われた。（観衆二百）

日本 28（15－4, 13－2）6 台湾

	【台湾】	得
GK	翁錦秀	0
	陳淑瑛	0
FP	劉全妹	0
	陳金燕	1
	翁月若	0
	王月琴	1
	英月素	0
	秦舜瑛	1
	石港琮	0
	頼翠娥	0
	張暁萍	3
	張冀萍	0
	計	6

	【日本】	得
GK	和田	0
	渡辺	0
FP	古佐原	9
	島田	2
	蔵田	2
	加藤	0
	額賀	6
	山下	3
	松下	2
	有賀	0
	菊地	3
	河田	1
	計	28

28（2）7MT（0）6

○……日本は立ちあがりの5分間に山下、古佐原、額賀が鮮やかなシュートを決めた。

台湾も張暁萍〜169cm〜がミドルシュートを続けて成功させ、なかなかの出足だった。

しかし、日本は雰囲気になれると、速い攻めから相手ディフェンスをゆさぶり、カットイン、ポストなどで矢次早やに得点、15分9－2、そのあとも多彩な攻撃で4点を加えた。

○……後半も日本は攻撃の手をゆるめず、古佐原の俊敏な突進や、菊地のミドル、松下の巧妙な切りこみで点差を拡げた。

前半よりもシュートミスが少く効率のよいオフェンスを見せ、公式国際試合初出場の若手も大量のリードに余裕をのぞかせ、身体コンディションや、コンビネーションプレイの〝調整試合〟として役立つ展開だった。

○……台湾は、ディフェンスに於いて、中盤までの守りが、日本のスピードをかわしきれず、日本のFPに自在に走りまくられてしまった。

オフェンスでは、参加選手中最長身の秦舜瑛〜171cm・左腕〜が右サイドから中央へカットインして流れこみながら放つシュートや、陳金燕、王月琴、張(暁)らがよい動きを見せたが散発的で、国際レベルには、まだまだ到達まで時間がかかりそうである。

（渡辺慶寿・監督代行）

韓国、いちどは同点に

日本の第2戦・韓国との1回戦は、13日午後4時から行われた。（観衆三千）

日本 22（13－11, 9－6）17 韓国

○……観客の大声援をうけた韓国は斗志満々、日本のナショナルが男女を通じて韓国と対戦するのは地元では初めてとあって、コートサイドの役員の表情も熱っぽい。

	【韓国】	得
GK	李太姫	0
	金賢淑	0
FP	曺賢華	0
	姜京宜	10
	李相玉	2
	朴妙順	1
	李京姫	1
	権美子	0
	金玉子	2
	金玉淑	1
	林仁淑	0
	張恵玉	0
	計	17

	【日本】	得
GK	和田	0
	渡辺	0
FP	古佐原	6
	蔵田	4
	島田	4
	額賀	6
	山下	0
	菊地	2
	加藤	0
	松下	0
	穂積	0
	紀野	0
	計	22

22（7）7MT（5）17

先制したのは日本、2分7MTを古佐原が決め、韓国ディフェンスの弱さを探り出した。

しかし、韓国も、姜京宜〜162cm〜が、タイミングを一つ遅らせたモーションからミドルを多発、5分同点となった。

○……重苦しいムードが溶けはじめると、攻守の組織で日本は一枚上だ。古佐原、島田、蔵田がさすがにキャリア豊かなところを示し局面に応じた動きからポスト、サイド、ミドルなどを射ち分け、15分7－2と放した。

ところが、このあたりから、フォーメーション攻撃にこだわりすぎて、凡ミスが目立ち、思うように得点をとれないばかりか、韓国の反撃をうけて追いこまれ、前半は9－6で終った。

○……韓国は、調子の波をつかんで、後半はいきなりスパート、40秒朴妙順、1分李相玉、1分25秒金玉子とたたみかけて9－9、エキサイトした展開になった。

日本がここで浮き足だってしま

全日本女子（遠征メンバー）

		氏名	所属	身長	得点
・団長		安藤 純光	日本協会常務理事		
・監督代行		渡辺 慶寿	日本協会常務理事		
・コーチ		池田 鉄哉	日本協会技術委員		
・GK	①	和田 祥子	立石電機	167cm	・
	⑫	渡辺 久子	日本ビクター	161	・
	⑱	久保 徳子	田村紡	161	・
・FP	②	古佐原ひろ子	東京重機	153	㉞
	③	島田 夏枝	立石電機	163	⑮
	④	蔵田 照美	立石電機	162	⑫
	⑤	加藤 美起子	日本ビクター	164	⑧
	⑥	額賀 美恵子	日本ビクター	163	㉑
	⑦	山下 恵美子	立石電機	160	⑥
	⑧	松下 仁美	田村紡	163	⑤
	⑨	有賀 とも子	東北ムネカタ	165	・
	⑩	菊地 春美	東京重機	162	⑬
	⑮	河田 栄子	田村紡	167	①
	⑯	穂積 美穂子	日本ビクター	168	①
	⑰	紀野 奈々美	立石電機	165	②

・左の○内数字は背番号，右の○内数字は今回の得点

ったら、あるいは危かったかもしれないが、あくまで沈着にプレーを進め、2分島田—古佐原のポストプレー成功のあと、相手ディフェンスをゆさぶる動きから3本の7MTを誘いだす巧妙なかけ引きをみせ、いずれも額賀が決めて、優位をキープした。

○……韓国にとって、せっかくムードが上ったところでの連続7MTは、斗志に水をかけたようで、そこをまた、日本は菊地、蔵田を中心に攻めこみ20分22—14、勝利を動かないものとした。

韓国も、終盤再び元気をとりもどし、姜、李京姫で反撃したが大勢をくつがえすには至らなかった。

しかし、この粘りと若さ、将来、日本にとって大きな脅威となりそうである。（渡辺慶寿）

▽韓国×台湾1回戦（2月9日、観衆千五百）

韓国 18（8—2、10—5）7 台湾

＜得点＞韓国＝林仁淑4、李相玉3、姜京宜、朴妙順、金玉淑各2、李京姫、権美子、金玉子、曺明順、張恵玉1

台湾＝秦舜瑛3、陳金燕2、王月琴、石港琼各1

【1次リーグ順位】①日本2勝②韓国1勝1敗③台湾2敗

台湾から45点奪う快勝

第2次リーグ

日本の第3戦・台湾との2回戦17日午後4時から行われた。（観衆百五十）

日本 45（24—1、21—3）4 台湾

【台湾】		得
GK	翁錦秀	0
	陳淑瑛	0
FP	留金妹	0
	陳金燕	1
	翁月若	0
	王月琴	2
	呉月素	0
	秦舜瑛	1
	石港琼	0
	頼翠娥	0
	張暁萍	0
	鄭瑞芬	0

【日本】		得
GK	久保	0
	渡辺	0
FP	古佐原	13
	島田	4
	蔵田	2
	加藤	7
	額賀	5
	山下	2
	松下	3
	穂積	1
	菊地	6
	紀野	2

45（7）7MT（1）4

○……相手の手の内が判り、しかも大会の雰囲気に馴れた日本は、速攻の腕試しを企って、スタートから積極的に押しこんで出たため記録的な圧勝となった。

40秒、山下のカットインが7MTとなり古佐原が決めたのが口火。松下の勢いのよいプロンジョンショットや加藤のサイドシュートなど新鋭の動きもよく、それにベテランが巧味のあるプレーで得点をあげた。5分4—0、10分8—1、15分14—1、20分19—1と記録係りは1分ごとに得点のマーク。

○……日本の威勢に台湾は圧されたのか、第1戦よりも動きが悪く張(暁)が右45度からミドルでゴールを狙うが決まらず、セットでゆさぶりに出ても、日本守備網は少しも乱れなかった。

後半になって王、陳(金)がミドルと7MTでポイントしたもののペースを変えるところまでは、とうていいかず、10分日本は30点をこえると、続々と新人を送りこみ山下をリード役に紀野、穂積、松下、菊地、加藤でFP陣を編成した。

○……この起用に応えて、これらの選手も存分に力を発揮、前半に優る多彩な好プレーを発揮、45点というハイスコアをマークした。

外国チームを相手に45点ものゴールをマークした記録は、本誌の調べでは、39年3月全日本男子がチェコ5部リーグのストコフ炭鉱に45—5で勝った試合があるだけ。女子では初。（渡辺慶寿）

五輪女子3大陸代表決定戦出場権も

日本協会が有力なIHF筋から得た情報では、IHFはモントリオールオリンピック女子の「3大陸（アジア・アフリカ・アメリカ）代表決定戦」に出場するアジア大陸代表権を今回行われた第6回世界女子選手権アジア予選の勝者に与える模様である。

日本、前半で勝負決める

日本の第4戦・韓国との2回戦は、大会最終戦として19日午後4時から行われた。（観衆三千百）

日本 23（14—6、9—10）16 韓国

【韓国】		得
GK	李太姫	0
	金賢淑	0
FP	林仁淑	1
	姜京宜	4
	李相玉	6
	朴妙順	0
	李京姫	2
	権美子	0
	金玉子	1
	金玉淑	2
	金福順	0
	張恵玉	0

【日本】		得
GK	和田	0
	渡辺	0
FP	島田	5
	蔵田	4
	額賀	4
	菊地	1
	古佐原	7
	山下	1
	松下	0
	有賀	0
	河田	0
	加藤	1

23（5）7MT（2）16

○……日本は1分30秒古佐原のポストシュートで好調なスタート、その後も韓国の反則（主にチャージング）からワンパス速攻などで攻めたて、10分7—2とリードした。

韓国も李(相)のステップからのミドル、姜のサイドからのシュートなどで粘り、いちぢは3点差となったが、日本は古佐原、菊地で突き放し、ディフェンスも出足のよいプレーで、韓国の追加点を阻み、前半終了間ぎわ、5点のたたみかけで、完全に主導権を握った。

○……後半、日本はフォーメーションプレーがととのい蔵田、島田、加藤らのポイントで7分18—8、さらに古佐原が2点を積みあげて20—8と大差がついた。

ところが、韓国は第2戦同よう粘りのあるところをみせ、日本が

「ハンドボール」

50年3月号（第128号）目次

【表紙写真】世界女子アジア予選Aゾーン開会式に臨んだ日本チーム（2月9日・韓国大邱市慶北体育館）

【YOUNG・NAM・NEWSPAPER・COが全日本チームへ提供した写真】

わずかにタイミングを狂わせたスキをついて8分から12分までの4分間に連続5点（13―20）詰めかけた少年ファンに大歓声をあげさせた。

〇……しかし、大量リードに余裕をもつ日本は蔵田と額賀で追加点をあげ、なんとかダブルスコアだけは免れようとする韓国を押し切った。

韓国は、前半、日本の速攻に闘志をややそがれてしまい、めずらしく気力を欠いたプレーで傷口を拡げたのが最後までひびいた。

日本は、韓国側のプレーをよく読んで、後半のスコアは劣ったものの危気はなく、楽勝といえた。

（渡辺慶寿）

▽韓国×台湾2回戦（2月15日、観衆二千＝TV中継）

韓国 29（19―1 10―5）6 台湾

＜得点＞韓国＝姜京宜9、李相玉、李京姫各5、朴妙順、林仁淑各4、金玉子2

台湾＝張暁萍3、陳金燕2、秦舜瑛1

レフェリーは西ドイツペア

今回の大会（全6戦）のレフェリーは、IHF（国際ハンドボール連盟）の推せんにより、エドガー・レイチェル、ビルフライト・テテン（ともに西ドイツ）国際公認審判員によって運行された。

また、使用球は韓国協会の公認球「スカイ」（プラスチック表皮）だった。

IHFの新案提示で
開催前にひともめ

第6回世界女子選手権アジア地域Aゾーン予選は、予定どおりの日程で進められ、日本の首位が決まったが、開会前には一波乱も二波乱もあり、日本協会も大きくゆさぶられた。

ことの起りは、IHF（国際ハンドボール連盟）が、Bゾーンでインドに不戦勝したイスラエルをAゾーンに改めて組み入れ、日、韓、台の4ケ国リーグで、アジア代表権を争わせようとしたことにあった。

Bゾーン勝者としての既得権を主張すると想われたイスラエルがあっさりとこの提案をのみ、韓国入りの日時まで公表したのに対し突然、イスラエルを加えて大会を開くよう指示された韓国協会は強硬に反撥、いちぢは、日、韓、台によるAゾーンの開催をもボイコットする動きがあった。

日本協会のとりなしと、IHFが新案を撤回したため〝解決〟したものの、後あじを悪いものにした。

IHFは、日本協会が、渡辺和美IHF理事（アジア地域選出）を通じ「イスラエル対Aゾーン勝者の試合（2試合）を、Aゾーン予選後引きつづき韓国で開いたらどうか」（＝本誌前号速報）と要望した件を、飛躍して処理したもののようだが、それにしても、韓国協会への事前連絡が充分でなかったことは責められ、しかも、韓国協会の一部に「日本は、既にAゾーンで勝つと決めてIHFに働きかけた」という誤解を生んだことは日本―韓国両協会間にも、マイナスな材料を与えてしまった。

団長、安藤氏がつとめる

日本協会は1月26日の全国理事会（東京）で、第6回世界女子選手権アジア地域Aゾーン予選の全日本女子選手団々長として、安藤純光常務理事（法大出、46才）を推せんした。同団長は帰国後の月例常務理事会で任を解かれた。

渡辺技術部長が代行
井監督急病

全日本女子・井薫監督（日本協会技術委員、立石電機監督）は1月末から高熱がつづき、2月4日熊本市立病院で検査をうけた結果急性肝炎、最低1カ月の休養が必要と診断され、入院した。

このため、同監督の韓国遠征が不可能となり、日本協会は、田村会長―荒川理事長―渡辺慶寿技術部長が談合、監督代行として渡辺技術部長の派遣を決めた。

イスラエル（Bゾーン勝者）戦は井監督が全快したため、戦列に戻り、これまでどおりのコーチングスタッフで指揮がとられた。

勝敗表	日本	韓国	台湾	P	得	失
①日本	……	○○	○○	8	118	43
②韓国	●●	……	○○	4	80	58
③台湾	●●	●●	……	0	23	120

個人得点（本誌調べ）

順位	氏名	所属	得点
①	古佐原	（日本）	34点
②	姜京宜	（韓国）	25
③	額賀	（日本）	21
④	李相玉	（韓国）	16
⑤	島田	（日本）	15
⑥	菊地	（日本）	13
⑦	蔵田	（日本）	12

鈴木コーチも負傷 男コーチ（田村紡監督）は、昨年末の全日本女子強化合宿（東京）でアキレス腱を切断入院加療、1月末再び痛め現在も加療中である。

ヨーロッパ予選も始まる
東ドイツら順当に先勝

全日本女子・鈴木義

第6回世界女子選手権のヨーロッパ予選は、2月16日ストックホルムでのスウェーデン×ポーランド1回戦から各地でいっせいに火ぶたが切られた。

ヨーロッパからは14カ国がエントリーしたため、7組に分けて代表決定戦が行われることになっており、ヨーロッパ各国にとっては、この段階で敗れるとモントリ

私の見た韓国、台湾

韓国

昨春来日したジュニア選抜の主力がやはり今回の中心だった。特に、姜京宜、李相玉、張恵玉はその当時よりいちだんと成長したようでこの三人と朴妙順による攻撃は、油断の出来ないものがあった。

李相玉のロングシュートを警戒していると、姜京宜がゆさぶってくるというパターンをオフェンスの主体にしており、二人とも18才ということなので、今後はいっそうマークしなければならないだろう。

しかし、このほかの攻撃の手は単調、日本のディフェンスは、その動きをよく読めた。GKもひところより力が落ちていると思う。

日本で対戦すれば、あと3～5点は開くはずだが、20才以上が3人だけで、あとは19才3人、18才5人、17才3人と上り坂の選手ばかり、しかも、日本の高校生よりレベルは上の感じだけに、2～3年後は楽には勝てなくなりそうだ。

強打を警戒していた李純玩は結婚して、選手生活からはなれたという話だった。

場内の声援は、覚悟して出かけて行ったこともあり、さほど気にならなかった。〈島田夏枝〉

◇韓国のメンバー（数字は身長）

	氏名	身長
K	李太姫	162
	金賢淑	163
F	曺賢華	158
	姜京宜	162
	李相玉	164
	朴妙順	167
	李京姫	164
	権美子	157
	金玉子	162
	金玉淑	161
	金福順	162
	張恵玉	163
	林仁淑	152
	曺明順	163

韓国・金正秀監督の話　かってないほどの合宿を重ねてきたが、勝つことができず残念だ。しかし今回で自信がついたし、日本を破る日も女子のほうが、男子より早く来そうな気がする。

日本が世界選手権でベストフォアとなり、我々にオリンピックへの道を開けて欲しい。

台湾

ハンドボールというよりバスケットボール型のプレーで、実力は卒直に云って、日本の高校チームなみだった。

選手も、まだ本格的なハンドボールプレイヤーは少ないようで、動き～フォーメーションも個人も～がまったく日本のそれと違うため最初の試合の時は、ちょっととまどった。

張暁萍、鄭瑞芬、秦舜瑛（左腕）ら大型選手は、マークをはずしたらなかなか鋭いシュートを射つしゲームメーカーが育てば、いいチームになると思う。

選手の年令は16～20才で16才の選手が4人も居た。呉月素、翁錦秀（GK）、陳金燕、翁月岧の4人は46年7月に日本を訪れた広山国民小学校（台南県）のメンバーで比較的ハンドボール技術を身につけていた。（注・広山小来日の記事は本誌90号参照）

ナショナルチームがつくられたのも今回が最初ということで、日本と韓国から少しでも多くのものを得ようという姿勢が目立ち、当分の間は「参加することに意義」の域を脱せないのではないかと思う。

◇台湾のメンバー（数字は身長）〈古佐原ひろ子〉

	氏名	身長
K	翁錦秀	166
	陳淑瑛	161
F	劉全妹	166
	陳金燕	166
	翁月岧	165
	王月琴	162
	呉月素	160
	秦舜瑛	171
	石港瑛	155
	許素真	162
	鄭瑞芬	170
	張冀萍	167
	頼翠娥	159
	張暁萍	169
	宋阿月	159

台湾・温展洪監督の話　1ケ月近い合宿練習をつみ、勝つことよりよい試合をすることを心がけたが、日本、韓国のスピードにやはりついていけなかった。

若い選手が多いだけに、今回の経験は大きな〝実〟となるだろう。

初試合にしては、よくやったのではないだろうか。

オールオリンピックへの夢も断たれるため、激戦がつづいている。

本誌締切りまでに1回戦が終了。注目の東ドイツ×ブルガリア戦は東ドイツがクレツマーの活躍で快勝、ホームゲームを残しているだけに、勝利を不動のものとしている。

また、ルーマニア×西ドイツは西ドイツの健闘で接戦となったがルーマニアは終盤、地力をみせて勝った。3月15日ミンデンでの西ドイツの試合ぶりが興味深い。

なお、前回優勝のユーゴと、本大会開催国のソビエトは、予選には参加しない。

1回戦の記録は次のとおり。

ポーランド 17（10－8, 7－7）15 スウェーデン
ハンガリー 16（11－3, 5－3）6 フランス
ノルウェー 6（3－2, 3－1）3 スペイン
東ドイツ 20（12－5, 8－7）12 ブルガリア
ルーマニア 16（9－5, 7－6）11 西ドイツ
チェコ 22（10－2, 12－6）8 イタリア
デンマーク 18（6－7, 12－4）11 オランダ

アフリカ代表　アルジェリア　世界女子のアフリカ大陸代表はエントリーがアルジェリア一ケ国のため、予選なしで決まった。

アメリカ大陸代表はアメリカ×カナダの勝者がなる。

イスラエルの欧州移行を考慮 二つの国際会議

第6回世界女子選手権アジア予選（別掲）におけるインドの棄権や、イスラエル参加をめぐる動き、さらにはAゾーン予選開催地決定までの難行（本誌126号参照）など一連の"事件"は、改めてアジアハンドボール界の課題を浮きぼりにしたが、この機に二つの注目すべき国際協議会がアジアで開かれ、今後の成り行きに関心が集っている。（編集部）

① IHF首脳クウェート会談

1月20日から31日までクウェートで開かれた国際トーナメント（男子）にIHF（国際ハンドボール連盟）のヒョークベルグ会長（スウェーデン）、リンケンバーガー事務総長(西ドイツ)、ヴァドマーク常務理事(スウェーデン)、渡辺和美アジア地域選出理事(日本)の4首脳が招かれたのを機に当面するアジア問題について協議が行われた。

これは、クウェートが、昨年9月テヘランでの第6回アジア競技大会時に、中国、パキスタン（とともにIHF未加盟国）らとともに「アジアハンドボール連盟（AHF）」を結成、IHFが昨秋の総会で事実上公認しなかったことにからんで行われた話し合いとみてよく、国際トーナメントに出場中のクウェート、シリア、リビア、エジプト、パレスチナ（IHF未加盟）の代表も陪席したと云われる。

席上、4首脳は、改めてクウェートらのAHFを、IHF未加盟国が加っているなどの点で承認しがたいという意向を確認、今年なかばまでに、IHF本部が、大陸別連盟の規約を作成、その線にそって改めてAHFを設立するよう指示することにまとまったようだ。

注目されるのは、アジアに属するIHF加盟国を「近東」「極東」に分けてそれぞれ「ブロック連盟」をつくるよう大綱を定めた点で、これはアフリカ連盟が7ブロックアメリカ連盟が南、北の2ブロックに分けて準備されているのと同じパターンである。

「極東」「近東」の境界線は、渡辺理事によればインドとなるようだが、当分の間、イスラエルだけは「極東」に含める意向という。

また、イスラエルのヨーロッパ転籍をIHFとして考慮、来年の総会（ポルトガル）の議題とされることが申し合われた、と伝えられる。

「極東」「近東」に分けての最初の行事は、モントリオールオリンピック男子アジア予選になることが確定的だ。

② 極東3国代表者懇談会

2月15日午前10時から韓国大邱市の韓一ホテルで開かれ、日本から荒川清美理事長、安藤純光常務理事(アジア予選団長)、韓国から洪淳泰、朴応喆、鄭鍵圭、台湾から陳鶴声、温展洪、陳良嶋の各氏が出席した。

この懇談会の招集者はIHF渡辺和美アジア選出理事で、前項のIHF首脳クウェート会談のAHF結成に関する姿勢説明が主題だった。

3国の出席者は、「極東」「近東」の2ブロック分立には賛意を示しイスラエルのヨーロッパ移行についても、IHFがより積極的にこの問題を推進するよう要望した。

また、渡辺理事は、AHFに関して、「極東」「近東」にそれぞれ会長（代表者）を置く、IHFのアジア選出理事は、IHF総会で選出する、などの具体的な内容を示し、出席各氏も支持したが、「極東」ブロックの会長を、一気にこの場で選任したら、という渡辺理事の提案に対しては、日本協会が「保留」を強く要望、容れられた。

荒川理事長は、2月20日帰国後東京で「極東ブロックについては朝鮮民主主義人民共和国、ホンコン、それにイスラエルも加えて話し合うのが筋道だ」と話している。

このほか、アジア予選時のレフェリーをアジア地域でまかなうことや、開催国が遠来チームの航空費の一部負担を行う内規の撤廃、場合によってはアウトドアコートの使用などの要望が出された。

◇

この二つの会議のアウトラインを聞いた日本協会常務理事会（2月22日）は、大筋を了解しながらも、イスラエルのヨーロッパ移行は、ヨーロッパの一部に、ヨーロッパカップからのイスラエル締め出しのムードがあることや、同国がAGF(アジア競技連盟)加盟国などの点で、予断を許さないとみており、また「極東」についても新加盟国、未加盟国が多いだけに既成国だけで話し合いを進めるのは、将来にマイナス面が予想されるとして、慎重な行動を申し合せた。モントリオール アジア予選（男子）については具体的な話し合いはなかったという。

中国、ユーゴ招き交流

フランスのスポーツ紙"レキップ"が東京発のニュースとして伝えるところによると、ユーゴナショナルチーム（男子、ミュンヘンオリンピック優勝、昭来日）が3月6日から中国へ遠征、北京などで中国チームと交流している。

3月7日、北京での第1戦は一万八千の大観衆を集め中国陸軍選抜と行われ35—12（前半16—4）でユーゴが勝った。

(編集部注) 中国の国際交流が伝えられたのは、昨夏ルーマニアの強豪・テイミソアラ工業学院大戦以来のもの。

今回注目されるのは、ルーマニア、東ドイツと並ぶ世界のトップスリーといわれるユーゴの、しかもナショナルチームを招いた点だ。

ご承知のように中国はIHF未加盟国、IHFは渡辺和美理事の説明によれば「近い将来、加盟する意思のある国となら、加盟国が交流してもさしつかえない」そうだが、IHF筋の動きに探りをいれるかのようにテイミソアラ工業学院大を迎えた昨夏とはちがい、敢然と世界最上級のナショナルチームに声をかけ、ユーゴがそれに応じたのは注目されるものがある。

第2戦以降の記録は伝えられていない。

「組織協力金」の徴収決める
――会長に田村正衛氏4選――
激論つづいた初の全国代議員会

さまざまな課題をかかえ、新局面を迎えようとする日本協会の新体制として、多大な期待と注目を集めた定例全国代議員会の初会議が23名の全国代議員（ほかに委任状18通＝定数52名、成立）を集めて、2月23日午前10時3分から、東京・岸記念体育会館で行われ、会長に田村正衛氏（69才、三重協会々長）を4選したほか、50年度資金計画（予算）など重要案件を可決した。

会議は延々6時間に及び、特に日本協会のアキレス腱ともいえる「財政問題」は、組織を背景とした代議員と、執行部が意見を対立させることもしばしばで、3時間の議論となった。

なお、次回は10月19日（東京）に開催されることが決まった。

保坂副会長ら4氏も留任
渡辺（和）氏にはIHF専念要望

史上初の全国代議員会の最初の協議事項は会長（昭和50、51年度）選任であった。

協議は、荒川清美理事長を残して現会長、副会長、執行部側が退席したなかで行われた。田村正衛氏の重任（4選）が各代議員の間に持ちあがり、結局、この時点で出席中の18氏が全員賛成を意思表示、極めてスムーズに〃結論〃を導いた。

小憩後、副会長の選任に進み、田村会長と代議員代表5氏（宮川・茨城、角・富山、伊藤和・愛知、丸口・広島、岡井・福岡）と荒川理事長が話しあった結果、現職の保坂周助（神奈川協会々長）、林達夫（全日本実連会長）、西敏郎（全日本学連会長）、徳永陸繁（全国高体連ハンドボール部長）の4氏を引きつづき推すことにまとまった。渡辺和美（東京協会々長）氏については、同氏がIHF（国際ハンドボール連盟）理事の要職にあり、激動するアジア球界のなかで、IHF理事と日本協会副会長を兼ねることが、他国へ、IHF・日本が〃一体〃という誤解を招く可能性もあるとする田村会長の意向を汲んで渡辺氏の「IHF専念」を要望することになった。田村会長は渡辺氏に近くこの旨伝えるとともに日本協会顧問就任を要請する模様。

つづいて、監事の選任に進み、執行部原案の山田稔（留任）、宮崎慎六、町田歳雄氏を承認した。

財政問題で議論3時間

論議が白熱したのは、予想どおり「財政問題」である。

執行部側が、この日を前にたてていた50年度予算編成の骨子は、

①加盟金、登録料、オリンピック基金の据えおき

②機関誌購読料の改訂（年額二千五百円＝現行二千三百円）

③国際事業のうち、プレオリンピック参加と第6回世界女子選手権（含む第2回東ドイツ交流）参加は特別会計とする

の3点であった。

しかし、日本協会収入の基盤となる加盟金、登録料を前年度なみにおさえて、諸経費高とう、事業の拡充に対処しようとするのはあらゆる面で困難となり、議場へさらした予算案は、八、六〇七、四〇〇円を「不足」とする異例のものであった。

日本協会加盟金（年額）	
・Aランク	50,000円
・Bランク	30,000円
・Cランク	20,000円
―組織協力金―	
・Aランク	100,000円
・Bランク	30,000円
・Cランク	10,000円

（注）
Aランクは，登録チーム数が100以上の協会。
Bランクは同40以上の協会。
Cランクは同39以下の協会。

1月末以来、執行部は①を守ったろえ、すべての事業をまかなうのは難しいとしながらも、査定に査定を加えたのだが捌ききれず、ついに前日の月例常務理事会で、現状理解のため、不足額の補てん策を同時提示することで意見がまとまり、この予算案の提出となったのである。

当然のことながら、会議は、この不足額をめぐっての論議となり、神田財務担当、杉山総務企画担当両常務理事が、この面での解決がなければ、国際事業など縮少もやむを得ないなどの強硬発言をしたため、いっそう、小袋代議員（高体連）、遠藤代議員（埼玉）ら代議員側との意見対立を深めた。

遠征個人負担増額決める

議論は、意見百出で堂々めぐりの場面もあったが、結局、特別会計とする二つの国際事業参加者の個人負担額を、これまでの一人15万円限度という線をくずしてまか

なうことにし、日本協会負担分を全額カット（総務企画部特別事業費として計上された三七一万円）、残る四、八九七、四〇〇円のうち三百万円は林副会長を中心とした企業、外部財界から支援をあおぎ、一、八九七、四〇〇円は、「50年度組織協力金」として、

一、登録チーム100以上の協会は10万円
一、同40以上の協会は3万円
一、同39以下の協会は1万円

各分担することで96万円(推定)を捻出、差額九三七、四〇〇円は事業予算からさらに削減して、一切の帳じりを合わせることになった。

「50年度組織協力金」については加盟金の上のせとして、いったんは議決に近づいたが、島田代議員(熊本)らの地方の現況報告をからませた反撥があって、別枠徴収という形におさまったもの。

協会の意欲的、前進的事業を肯定しながらも地方協会の運営にたずさわる立ち場の代議員が多いだけに〃地方財政〃への圧迫をつとめてさけようとする発言が目立ち、改めて、日本協会の財政基盤が、登録金、加盟金に頼るひよわさを浮き彫りにした。

この場で議決された「50年度登録金」などは別表の通りである。

なお、財政問題に関連して、遠藤代議員から、IHF審判講習会(5月、オランダの予定)派遣につき、審判部の姿勢が質され、安藤審判部長は「若手国際審判員の登用を積極化しながら、世界の桧舞台でレフェリングできる人材を一日も早く、一人でも多く輩出したい」と、この事業の必要性を強調した。

▽昭和50年度日本協会納入金（単位・円）

		チーム登録料	個人登録料	オリンピック基金	機関誌購読料
高校		一、五〇〇	不要	三〇〇	二、五〇〇(注)
学生		四、〇〇〇	不要	五〇〇	二、五〇〇
高専		一、五〇〇	不要	三〇〇	二、五〇〇
少年		五〇〇	不要	不要	不要
一般	A	四、〇〇〇	1人二〇〇	五〇〇	二、五〇〇
一般	C	三〇〇	不要	不要	義務づけず

〈注〉高校の機関誌購読料は1チーム1冊の年間購読を基準とし「強制」の性質をもたせない。男女両部登録の場合は一方だけで構わない。

ユニバシアード委加盟へ

財政問題に時間が費やされすぎたためか、「50年度全国大会」「同国際事業」〜いずれも本誌11頁参照〜「日本ユニバシアード委員会加盟」などの件は、執行部案をあっさり認め「全国連盟代議員数」も現行どおり「当分の間1名」(日本協会規約附則第3項)のままで進むことに落ち着いた。

まずまずの出席率

○……初の代議員会を前に、注目を集めたのは出席者数。

代議員会制の施行は、ひどい時には、出席者1人という全国評議員会(旧)の〃無力〃が呼び水となったものだけに、よけい関心が集っていた。

当日前までに、出席の返信を寄せたのは28氏(58%)にのぼったが、新幹線事故や、積雪による交通ストップなどで、開会前に欠席を通知してくる代議員も多く、結局、23氏(44%)の出席に留った。

しかし、結婚式のあい間をぬってモーニング姿で出席した代議員や、帰りの汽車を気にしながら最後まで熱心に議論に加わる代議員の表情は、評議員会時代には見られなかったものだけに、今後は、いっそうの充実が期待できる。

執行部との〃対立〃も

○……代議員側と執行部の意見のくいちがいも、これまでにないことだった。

初会合だけに、両者とも手さぐりのまま、平穏に散会するのではというみかたもあったが、どちらかといえば荒れ模様。

中央の事業拡充のみに焦点をあてたような執行部に対し、厳しい地方の実情を楯にした代議員の意見交かんは白熱。

執行部の一員が「日本協会の業務の最終点は金メダルの獲得と、あらゆる階層にハンドボールが知られ、親しまれることにある」と発言したことで一代議員が「金メダルの獲得を日本協会執行部が口にするのは、日本協会の〃目的〃を越えるもの」と指適、激しいやりとりが交わされるなどボルテージは時間の経過とともに上る一方だった。

関心集めた〃埼玉の実情〃

○……各議論のなかで、遠藤代議員が「埼玉県下の高校チームからは〃登録料〃の名でお金を徴収できないことになっている」と発言、関心を集めた。

近い将来、登録料制度そのものが、高校界を導火線にして、大きな変動をよぎなくされる印象が強まり、田村会長—荒川理事長も、この報告のもつ〃深さ〃〃重さ〃をかなり重要視したようである。

前項の金メダル論争といい、この問題といい、チャンピオンスポーツ、マススポーツの板ばさみに悩む日本スポーツ界の現状をハンドボール界もはっきりと投影させたといえ、今後の大きな課題であることを示した。

3月22日に全国理事会

日本協会は、50・51年度新理事による初の全国会議を3月22日午後1時から東京・岸記念体育会館で開くことに決めた。

当日の会議で、理事長をはじめとする新執行部が選任され、名実ともに新体制がスタートする。

新理事続々と発表

任期満了にともなう日本協会理事改選は1月末から各ブロック、各全国連盟で進められ、本誌締切りまでに、次のように決まった。

会長推せん理事（14名以内）は3月5日頃までに発表される。

【昭和50・51年度日本協会理事】石切山稔治(北海道)、森恭一(東北)入江暢一(関東)、志田省吾（北信越、新)、栗脇 嶷(東海)、森田正英(近畿)、猪原 昭(中国、新任)越智武(四国)、藤田八郎(九州)、中沢重夫、田中秀夫（以上全日本学連)、片瀬喜代次、柳井文治(以上全日本教職員連)、富永砌、古庄昌雄(以上全日本自衛隊連)、嶋田新太郎、清水正(以上全国高体連)

「試練の年」決意して散会

全国理事会

昭和48、49年度理事による最終全国会議は、1月26日午前10時から東京・岸記念体育会館に、田村会長、林、保坂、徳永3副会長、荒川理事長、山田監事それに25理事（定数33名以内、現在数31名＝成立）が出席して開かれた。

各役員とも任期満了が近く、第6回世界女子選手権アジア地域Aゾーン予選（2月9〜19日、韓国大邱市別掲）の代表メンバーをはじめとする諸報告事項は、極めてスムースに承認され、縮少を伝えられる佐賀国体ハンドボール競技（昭和51年度）についても、今後のなりゆきに沿って善処されることとなった。

最大の議題となったのは「アジアハンドボール界をめぐっての動き」と「財政問題」だ。

特に、世界女子アジア予選のアジア地域決勝は、Bゾーンでインドの棄権からイスラエルの勝ちあがりが決まり（＝本誌前号既報）、Aゾーンで日本が勝った場合、その開催があらゆる面で困難をともなうことや、今秋以降に予定されるモントリオールオリンピック男子アジア予選も、復雑な政治情勢の波を避けられぬ、とあって各理事とも困惑の表情を浮かべた。

結局1時間をこすこの場の議論から曙光は見出せず、期限の迫っている女子予選については、現常務理事会を小委員会化し、場合によっては任期切れのあとも、この件だけは同一スタッフが中心となって対処することを申し合せた。

また、オリンピック予選は、原則として「日本開催」で準備を進めるように決めた。

国際事業、財政裏付けに不安

この両予選をはじめ、昭和50年度は、全日本男子のプレオリンック参加（8月、モントリオール）、同女子の世界選手権（12月、キエフ）、東ドイツ交流（11月、遠征＝交渉中）など、スケールの大きな事業が並び、しかもこのうち、日本体協の補助が期待できるのは女子世界選手権だけ、それも全面的なものではないために、財政面での裏付けに不安をもつ発言、意見が目立った。

荒川理事長は、新発足の代議員会に持ちこんで善処を企りたいとしたが、すでに加盟金、登録金、検定料などは頭打ち、しかも、これらの総額が物価高のあおりをうけた事務局経費を賄うのがやっとという現状は、日本協会事業縮少という「重大決意」を迫られることにもなりそうで、新年度の日本ハンドボール界はかつてない試練の年といえよう。

「日本協会登録規程」を改訂

このほか、国体少年の部新設や高専の拡充などにともない「日本協会登録規程」が大幅に改訂され（＝本誌13頁参照）、自衛隊チームの取り扱いについても、一部の協定がはずされ、全日本自衛隊選手権出場は、日本協会登録チームのみ認めることとなった。

全日本自衛隊及び全日本教職員選手権女子の部への出場は、引きつづき昭和51年度まで、日本協会未登録チームも認めるよう、特別協定期間を延長した。

また、新年度全国大会（＝別掲）のうち第22回NHK杯（国際大会）は、新役員で検討する。

昭和50年度主要行事日程

- 新シーズン開幕国際試合（日本・スペイン国際親善大会）
  3月31～4月6日・各地（全5戦）
- 第7回全日本自衛隊選手権
  5月21～25日・東京駒沢体育館ほか
- 第4回日韓男子社会人交流
  5月・国内各地＝予定
- 第15回ＩＨＦ審判講習会
  5月・オランダ
- 第16回全日本実業団選手権
  女子リーグ5月23～6月15日・各地
  男子リーグ5月31～6月22日・各地
- 第9回（女子第4回）日韓学生交流
  6月・韓国各地
- 第5回日韓女子社会人交流
  6月・国内各地＝予定
- 第26回全日本高校選手権
  8月2～7日・山梨県塩山市
- 第18回全日本教職員選手権
  8月10～13日・佐賀県神埼町
- 第4回全国中学生大会
  8月17・18日・石川県小松市
- 第2回全国教育系大学研修会
  8月中旬・東京＝予定
- 日韓高校（ハンドボールは第9回，女子第2回）
  8月22・24日韓国釜山市
- 第2回全国高専選手権
  8月下旬・愛知県下
- 第22回ＮＨＫ杯（国際大会）
  9月5・6・7日東京体育館＝未確定
- 第25回（女子第7回）全日本学生選抜東西対抗
  9月15日・愛知県体育館
- プレオリンピック男子国際（6ケ国対抗）
  9月25～10月3日・モントリオール
- 第30回国体ハンドボール競技
  10月27～31日　三重県四日市市
- 第18回（女子第11回）全日本学生選手権
  11月・福岡県福岡市民体育館
- モントリオールオリンピック男子アジア予選
  11月～51年3月7日＝詳細未定
- 第5回日韓男子社会人交流
  11月・韓国各地＝予定
- 第6回世界女子選手権
  12月3～14日・ソビエトキエフ市
- 第27回全日本総合選手権
  12月10～14日・東京体育館
- 第7回全国男子実業団トーナメント
  51年2月＝予定

日本ハンドボール協会登録規定（全文）

◎印は今回改正された条文並に協定

第1条（目的）登録は都道府県ハンドボール協会を経て日本ハンドボール協会へ登録することにより、アマチュア資格を得ることを目的とし、すべて所定の用紙によって手続きは行わねばならない。

◎第2条（登録チームの種類）登録チームは下（左）記の種類とし一般の部は、本会の目的を達成するためと認められた時にのみさらに細分化することができる

イ、一般（男・女）
ロ、学生（男・女）
ハ、高校（男・女）
ニ、高専（男・女）
ホ、少年（男・女）

◎第3条（チーム登録の人員）チーム登録は、登録のさい少なくとも7名以上の個人登録を必要とする。但し、少年の部登録チームは、チーム名儀のみの登録でもさしつかえない。

◎第4条（個人の登録）一般の部の個人登録はチーム所在地、現住所、勤務地、通学先などの区別なく一人が3チームまで重複登録することができる。一般の部に登録される個人は、登録金を必要とする。

◎第5条（チーム登録期限）チームの登録期限は毎年5月31日としそれ以後の登録は認めない。ただし新設チーム及び全国理事会で特に定められた種別のチームはこの限りではない。

第6条（新設チーム）本規程では新設チームを認める。新設チームとは前年度登録されていないチームで、かつ本年度に於ける登録のメンバーはすでに他のチームに登録されている者が、3名以内であることを条件とする

（注・3名まではよい）

◎第7条（個人の追加登録）一般の部の個人追加登録は認められる。但し、追加登録金を添え、遅くとも競技会申しこみ締切り期日までに手続きを完了した場合に限る。

第8条（登録金）登録金（チーム並びに個人）及び追加登録金の金額については別に定める。

◎第9条（競技会出場資格）登録チームは、日本ハンドボール協会、都道府県ハンドボール協会並びに、全日本学生ハンドボール連盟、全日本実業団ハンドボール連盟、全国高体連ハンドボール部、全日本教職員ハンドボール連盟、全日本自衛隊ハンドボール連盟の主催または主管による競技会の出場資格を有する但し、全国理事会で、登録チームの種類により、出場資格を規制した場合はその適用を受ける。

2　国民体育大会（含予選）の出場資格については別に定める

3　未登録チーム（及び未登録者）は、上記各競技会に出場することはできない。

4　少年の部登録チームは、国民体育大会（含予選）以外の競技会には出場できない。

第10条（罰則）未登録のまま（個人を含む）公式試合に出場した場合またはその他アマチュア精神に反する行為があった場合は日本ハンドボール協会懲罰委員会にはかり罰則を課するものとする。

附則1　第4条のうち、すでに学生または高校チームに登録されている個人は、一般チームには2チームまでを限度とする。

◎附則2　第8条の金額は、日本ハンドボール協会全国代議員会で決定される。

附則3　日本協会主催の大会（国体、同予選を除く）のため日本協会が特別編成するいわゆる「選抜軍」は日本協会登録を必要としない。但し、その構成メンバー（選手）は日本協会の正規登録者でなければならない。

附則4　一般の部Cランクに登録される個人は第4条に示された個人登録金、第7条の個人追加登録金を必要としない。

◎附則5　自衛隊チームの日本協会登録については昭和44年4月1日以降別に定める。

・昭和48年2月11日　改訂
・昭和49年10月13日　改訂
・昭和50年1月26日　改訂

◎附則6　学生、高校、高専は個人登録金・同追加登録金を必要としないが、つとめて個人登録の異動を手続きするものとする

◎附則7　第4条に拘らず同一競技会（含予選）に重複登録（出場）は認められない。

特別協定事項

昭和49年10月13日の全国理事会の決議に基き「日本ハンドボール協会登録規程・協定事項」として次のように定める。

附・◎国民体育大会ハンドボール競技への参加協定

日本体育協会などの定める大会総則、参加資格による規定のほか日本ハンドボール協会は下（左）記の特別規程を定める。

1　あらゆる種別に学生の参加は認めない。学生とは学連登録者のみを指すのではなく、大学生（大学院生は除く）という「身分」を有する総ての者を指す。

2　少年の部（男・女）に中学生の参加は認めない。

3　前年度地域予選出場者とは「県予選も含めて」と解釈する。

附・◎自衛隊チームの日本協会登録に関する特別協定

1　自衛隊チームの実連系大会（全国・地方を問わず）への出場を認める

2　全日本自衛隊選手権が5月に開催される時にのみ、日本協会一般の部へ登録予定チームの出場も認める（出場チームは5月31日までに規定の手続きを必ず行うこと）

3　日本協会登録チーム名以外での活動も認める。但し構成メンバー（個人録録）は、原チームと同一でなければならない。

附・◎全日本自衛隊選手権及び全日本教職員選手権女子の部の取扱いに関する特別協定

1　全日本自衛隊選手権及び全日本教職員選手権女子の部に出場するチームは昭和51年度までは日本協会未登録でもさしつかえない。

国体高校選抜も登録料　日本協会は、今回の「登録規定」改訂で、新たに国体用・少の部を設けたがこれにともない昨年度まで、名儀登録だけでよかった「高校選抜」「高校混成」も登録料（1チーム500円）が必要となった。なお、高校、高専が単独で少年の部に出場の場合は不要である。

ゴールネットの検定制実施へ

日本協会財務部では、かねてかなゴールネットの検定制について研究を進めていたが、このほど別掲のメーカー社と大筋の話し合いがつき、50年度から、施行される見通しとなった。

日本協会が、ハンドボール用具のなかで、検定制を布くのはボールにつづいて二種品目で、財務部では、財源確保の一助となる一方いっそう良質のゴールネットが生産される購入者に対しても品質保証ができるものと期待している。

日本協会では、今のところこれまでに購入されたゴールネットの相当数が使用に耐え得るものとみて、公式戦は検定製品でなければいけないという規定を設ける意思は当分の間はないようだが、少くとも、全日本総合選手権程度は、50年度から検定ネットで運行するよう検討したい、としている。

あるメーカーの話によれば、現在ゴールネットは、各社合わせて年間約三千セット程度が販売されているということで、これまでにも、メーカー側が日本協会と話しあい、サイズを「長さ210×幅310×奥行行90×網目10㎝」と統一していた。

なお材質の値上げによって、50年度の販売価格は一セット一万八千円～三万五千円程度になるものとみられている。

▼ゴールネット検定申しこみメーカー（ABC順）

メーカー	品名	素材
(株)ジイティオ（大阪府吹田市）	井53－一〇〇〇	ポリエステル4m/mφ組みひも
	井53－一〇二一	ポリエチレン一〇〇〇d/21本
	井53－二〇九〇	ビニロンS20/90本
(株)鐘屋産業（大阪市）	ハンドボールネット	ナイロン21/144本
	ハンドボールネット	ビニロン20/90本
(株)松本製鋼（大阪府八尾市）	20/90本	倉敷ビニロン
	20/60本	倉敷ビニロン
(校)寺西喜商店（大阪府八尾市）	KT－四二四	ビニロン20番手120本撚
	KT－四二五	ビニロン20番手90本撚

ヤング全日本、16名で再編成

日本協会技術部は、このほど「ヤングナショナル」（男子のみ）16名を決めた。

これは、昨年2月に発表されて以来（＝本誌117号参照）のもので、この時のメンバー25名から、年令オーバーや辞退などがあって、それを整理したものである。

47年12月発表時の32名、49年2月の25名に比べて、リストアップが少く、しかも、新しい顔ぶれの追加がなかったことについて、渡辺(慶)技術部長は、2月22日の月例常務理事会で「オリンピックイヤーを前に、今年は最頂点のナショナル強化を重点にしたい。去年のメンバーから蒲生(中大)、村田(法大)ら将来性のある若手を数多くナショナルへ送りこんでいることもあって、「ヤング」の後続を補給するのは、米年でもよいという余裕がある。

今回、候補にあがって、最終的には「ヤング」に加えなかった選手は、この1年間じっくり見守りたい」と説明している。

なお「ヤング・ナショナル」は3月20日から3日間、東京練馬の自衛隊体育学校で、強化合宿を行う。

今回の16名のうち、大熊(中大)と菅野(日体大)は、48年度いったんナショナルに加わりながら、49年度になってふるい落とされたもので、再びヤングから、ナショナルを目ざしなおすことになる。

○…ヤングナショナル…○

▽GK

小松伊佐夫（中大、20）180㎝
酒谷　信彦（金沢工大、20）181

▽FP

藤本　康生（中　大　21）176
関　　健三（中　大　20）182
佐藤　恭政（中　大　19）179
大熊　昌己（中　大　21）177
丸井　克仁（大阪体大　20）165
松岡　良朔（大阪体大　20）187
岸見　圭彦（中 京 大　21）184
菅野　　肇（日 体 大　22）181
柳原　雄二（芝浦工大　21）186
生駒　靖夫（京都産大　19）182
布施　雅夫（セントラル自動車　20）178
鈴木　康正（三陽商会　19）176
由利　淳二（湯 沢 高　18）180
和泉賀都彦（岩国工高　17）188

年齢制限23才までに

日本協会技術部（中央委）は、ヤングナショナル（男子）の年齢制限を、これまでの「満22才以下」を1年延ばして「満23才以下」とすることに決めた。

これは、22才以下では、学生界から巣立つのと同時に資格を失ってしまうことになり、改めたものである。

上位リーグへ
日新製鋼（優勝）、三陽商会（2位）進む

全国実業団トーナメント

第6回全国実業団トーナメント（男子、第15回全日本実業団選手権トーナメントの部）は、2月9日から12日まで、広島県・呉市体育館（第1、2日は海上自衛隊呉体育館併用）に、全国14都府県から32チームが参加して行われた。

各チームとも、上位リーグへの意欲をみなぎらせ、レベル向上のあとを示す熱戦をくりひろげたが、結局、準決勝で勝った日新製鋼呉（広島）と、新進・三陽商会（東京）がリーグ出場権を獲得、両者による決勝は、日新がまとまりのある攻守で地力勝ち、2連勝を遂げた。

昭和50年度の日本実業団リーグ（第16回全日本実業団男子選手権）は、大同製鋼、三景、湧永薬品、本田技研鈴鹿、大崎電気、三菱レイヨン大竹、日新製鋼呉、三陽商会の8チームによって5月31日から6月22日までの8日間、全国7都市転戦によって行われる予定。

重機、新日鉄名古屋破る
住化菊本は海上鹿屋を

▽1回戦

日新製鋼呉（広島）36（17－2, 19－5）7 日本鋼管京浜（神奈川）

大阪ガス（大阪）24（11－5, 13－8）13 興亜石油（山口）

大成プレハブ（東京）26（12－1, 14－9）10 日本発条広島（広島）

自衛隊勝田（茨城）22（14－5, 8－10）15 トヨタ車体（愛知）

川崎重工（兵庫）22（9－8, 7－8, ……, 1－2, 2－1）19 丸善石油松山（愛媛）
引き分け
抽せんで川崎重工の勝ち

大山商会（大阪）22（7－2, 15－2）4 三井石油千葉（千葉）

海上自衛隊呉（広島）26（16－3, 10－4）7 日本耐酸壜（岐阜）

東京重機（東京）17（7－7, 10－6）13 新日鉄名古屋（愛知）

＝以上、呉市体育館

二和家具（岐阜）22（12－7, 10－7）14 海上自衛隊下総（千葉）

日本発条横浜（神奈川）24（15－7, 9－11）18 金沢市役所（石川）

三陽商会（東京）26（11－6, 15－6）12 丸善石油下津（和歌山）

神戸製鋼（兵庫）20（8－4, 12－5）9 武田薬品光（山口）

住友化学菊本（愛媛）20（5－4, 15－4）8 自衛隊鹿屋（鹿児島）

石川島播磨重工呉（広島）23（8－9, 10－9, ……, 3－0, 2－0）18 鐘渕化学（兵庫）

安田生命（東京）18（7－5, 11－7）12 日本鋼管福山（広島）

セントラル自動車（神奈川）22（10－5, 12－5）10 三井石油岩国（山口）

＝以上、海上自衛隊呉体育館

○……呉市体育館では熱のこもった試合があった。

重機×新日鉄名古屋（前年4位）は、一進一退から重機が後半雨宮牛木の活躍でリードを奪い20分15－11とした。新日鉄も粘り鏡味の連続ゴールで詰め寄ったが重機は残り1分2点を加え、突き放した。

川崎重工×丸善石油松山は、13－16と先行された丸善が残り5分から激しく反撃して延長。

勢いづく丸善は篠原、岡部の巧技で延長後半2分19－17と優位に立ったのだが、川崎は最後の力をふりしぼり守屋、小田で同点、抽せん勝ちの幸運を呼びこんだ。

勝田×トヨタ車体はまったく妙な試合。前半9点差をつけられたトヨタが、後半は宮松を中心に見違えるような動きで連続8ゴール、15分には13－14と追いあげた。ここで勝田はようやく落ち着き、疲れのみえたトヨタは再び押しこまれた。

○……自衛隊体育館では、好カードとみられた二和（前年3位）×海上下総、三陽×丸善石油下津、鹿屋（自衛隊1位）×住化菊本の3戦が、三和、三陽、住化の一方的な展開で、盛りあがりのないまま終ってしまい、わずかに石播呉×鐘化が二転三転してコートサイドをわかせたにとどまった。

後半20分16－17の劣勢から石播は25分西本で同点、28分野崎で逆転したのだが、鐘化もすぐに小池が決めて延長となった。

延長後は鐘化に疲れがのぞき、石播は原田の活躍などで着々とポイントした。

このほか、安田生命が斉藤、佐野、堀切らベテラン揃いらしい巧みな試合運びで日鋼福山を制したのが目立った。

三陽、神戸製鋼に逆転勝ち
日発横浜、二和を突放す

▽2回戦

日新製鋼呉 32（17－4, 15－5）9 大阪ガス

東京重機 21（7－4, 14－5）9 海上自衛隊呉

大山商会 25（12－8, 13－5）13 川崎重工

自衛隊勝田 30（14－5, 16－7）12 大成プレハブ

＝以上、呉市体育館

日本発条横浜 15（7－4, 8－7）11 二和家具

三陽商会 12（3－4, 9－5）9 神戸製鋼

セントラル自動車 17（5－3, 12－6）9 安田生命

住友化学菊本 20（12－3, 8－3）6 石川島播磨重工呉

＝以上、海上自衛隊呉体育館

○……優勝候補とみられた二和（前年3位）が前半の凡失から自滅した。

日発横浜は北村、伊沢が要所を逃さぬプレーで先手をとりつづけ後半20分11－10と追いあげられたあとも、すぐに3点をたたみかけて奪い二和の反撃を封じた。二和は長谷川、古川で粘ったもののロングシューターを欠き、日発のペースにはまりこんだままで終った。

三陽×神戸鋼は激戦の末、三陽が後半なかば逆転、逃げ切った。

神鋼は角谷を要に細かいプレーで三陽守備陣を乱し押し気味だったが、反撃機を狙っていた三陽は後半15分すぎ田中の連続得点で5－7の不利を一気にくつがえし一度は同点とされたものの、終盤白柳、鈴木で27分12－8とし、粘る神鋼を抑えた。好試合だった。

このほかでは、日新、重機、住化、勝田らの波にのった試合ぶりが目につき、敗れたチームのなかでは安田生命、川崎重工が善戦していた。

全般にレベルが上っている。

セ自動車ら勝ち進む

▽準々決勝

日新製鋼呉 14（8－5 6－5）10 自衛隊勝田

○……日新は下茂を中心に若い越智の活躍もあって好機を確実に活かして得点、先行した。

勝田は後半いきなりスパート、5分8－8と追いついたのだが、日新は直後の2本の7MTを決め優位を保ち、20分すぎからは、再びリズムにのった攻撃で加点した。勝田がここまで日新を苦しめたのは賞していい。（辻 一義）

大山商会 21（10－2 11－9）11 東京重機

○……重機は前半、大山の固いディフェンスを攻めあぐみ、後半の粘りも及ばなかった。

逆に大山は、立ちあがりから佐藤、川村らで相手守備網を切りくずし、後半、重機の反撃をうけても余裕があった。（岡村 久）

三陽商会 15（7－4 8－10）14 日本発条横浜

○……近森（ミュンヘンオリンピック代表、元大崎電気）を柱にした三陽は前半、セット、速攻で巧みにポイント、有利に試合を進めたが、後半になると総勢7人の無理がのぞきはじめ、日発の反撃をうけた。

日発は10分すぎから採ったプレス気味の守備が奏効、速攻も決まって25分には12－13まで詰めたのだが、三陽は2点を奪って、この場をもちこたえ逃げ切った。（槙 敏夫）

セントラル自動車 16（7－6 9－2）8 住友化学菊本

○……前半25分6－3とリードした住化だったが、そのあとの5分守りが乱れ、セントラルに4点を奪われ、この誤算が最後までたたった。

後半は、セントラルが速いローリングからポストプレーを着実に決め快勝した。（荒谷拓三）

日新、手固い攻撃示す

▽準決勝

日新製鋼呉 12（6－3 6－3）6 大山商会

【大山】		得
GK	川原	0
FP	水谷	0
	奥川	0
	前島	3
	佐藤	0
	伊藤	0
	山口	0
	根木	3
	川村	0

【日新】		得
GK	三田	0
	中野	0
FP	沖谷	0
	松木	0
	村川	3
	吹上	3
	下茂	1
	吉田	2
	越智	3
	湯中	0
	浜岡	0

（審・槙 青木）

12（3）7MT（0）6

○……立ちあがり両チームとも動きが固く、せっかくの好機をつぶして互いにペースを握れなかった。

しかし、前半終了間ぎわから日新は村川、吹上のポストプレーが決まりだし、じわじわと点差を開いた。

それに引きかえ大山は最後まで固さがほぐれず、リードされた焦りも手伝って相手ディフェンスをゆさぶり切れなかった。緊迫感のある好試合といえた。（岡村）

三陽商会 25（9－5 16－4）9 セントラル自動車

【セ自】		得
GK	片桐	0
	吉賀	0
FP	羽毛田	0
	加藤	0
	渡辺	3
	真木	0
	川原	0
	仲田	1
	布施	3
	吉沢	2
	中村	0

【三陽】		得
GK	吉近	0
FP	近森	4
	白柳	8
	鈴木	7
	稲木	4
	田中	2
	竹村	0

（審・上田 東）

25（3）7MT（1）9

○……三陽の白柳、鈴木を中心とする多彩な攻撃が光った。FP6人の持ち味がよく活かされており前半なかばからセントラルは防戦一方だった。

セントラルは前半10分3－1とリードするなど出足好調だったが攻防両面で粘りにかけ、それがプレーの単調さに露われてしまった。

これで三陽は、チーム結成1年で、早くも日本実業団リーグ入りを決めた。（平田幸男）

▽3位決定戦

大山商会 20（11－4 9－8）12 セントラル自動車

日新製鋼の好守備光る

▽決勝

日新製鋼呉 20（9－4 11－6）10 三陽商会

○……日新は吹上の巧技などでポイント、三陽の7MT失敗もあって20分7－3と先行、ゆとりをもった。

三陽は、近森が右足肉ばなれで思うように動けず、ディフェンスも前試合までの激しさがなく、後半14分には15－7と大差をつけられた。

【三陽】		得
GK	吉近	0
FP	近森	3
	白柳	3
	鈴木	2
	稲木	0
	田中	1
	竹村	1

【日新】		得
GK	三田	0
	中野	0
FP	沖谷	0
	松木	0
	村上	1
	吹上	6
	下茂	3
	吉田	3
	越智	7
	湯中	0
	浜岡	0

（審・岡村久 辻）

20（2）7MT（0）10

日新は、攻守のバランスがよくとれ、攻撃面では越智（180cm）の安定、守備面ではGK三田の充実があって、前年優勝時よりチーム力は引きあげられている。三陽もぎりぎりのメンバーだが、各個のもつ地力が高く、今後に期待は大きい。（東 昌弘）

地道な努力実る

□……広島で誕生した全日本実業団選手権が15年目の〝里帰り〟、その大会で地元・日新製鋼が優勝したとあって関係者は大喜び。三菱レ大竹とあわせて上位リーグ参加はこれで二チーム、両社の熱意もさることながら、広島協会のつみあげてきた地味な努力が、実を結びつつあるといってよいだろう。

歴代優勝チーム

①昭44 宗形製作所（大阪）
②昭45 ワクナガ薬品（大阪）
③昭46 住友化学菊本（愛媛）
④昭47 大山商会（大阪）
⑤昭48 日新製鋼呉（広島）
⑥昭49 日新製鋼呉（広島）

世界学生選手権より帰りて
—特集・その回顧と将来と—

今後の学連発展を願って

藤松　博（団長）

第一回大会(昭38)以来十二年ぶりの世界学生選手権大会への出場この計画は学連の現状からみて、その力量に余るものだったかも知れない。その効果についても関係者間で必らずしも意見の一致をみなかった。しかし全日本学連総合役員会は、再三の会議の結果、参加の方針を決定し、ルーマニア大会に参加するはこびとなった。

私は団の一員としてこの大会に参加し、その成果の多大であった事をよろこぶと共に、今後に残された多くの宿題の解決をする必要性を痛感しています。

北欧の織細なポストプレイ、東欧のダイナミックなプレイ、西欧の華麗なハンドボールなどを参加選手諸君が、自分の目で確かめ、実際に試合をし得た経験は、いつの日にか必らず、日本のハンドボール界に開花させてくれるものと確信します。試合後に一生懸命メモをとる姿、技術面で片語の英語で話し合う姿、ベンチ要員が全試合をVTRに納める・・・様子をみていて、勝つ事の外のもう一つの目標は、十分に達成できたものと思います。

最近の学生界の不振は学連関係者の間で頭痛のたねであった。実業団の台頭と共にその傾向はいちじるしさをまして来た。もちろんハンドボール界全体からみれば、必らずしもレベルダウンでもないし心配するに当らないことかも知れない。しかし吾々関係者の心配は、かっての日体大、芝浦工大、立教大チームに見られたオリジナルプレイが姿を消した事にあった。

勝つための研究、勝つための努力、このいづれをとっても、社会人に比して時間的余裕は十分あるはづなのになぜそうした傾向が見えないのか、この点が心配の種であった。今回の学生世界選手権大会の参加は、こうした学生界に新風を送りこむ起爆材としての効果をひそかに期待して計画されたものだ。

私は今後の学連の発展のために気付いた点を記すことによって今回の遠征の反省と報告にいたしたいと思います。

㈠　学生選手選大会の運営組織はIHFと全くはなれ、FISU(学生スポーツ連合)と開催国のスポーツ連合の共催で行われている点にある。吾が国の場合、日本協会とゆう上部組織にあらゆる面で依存する傾向にあり、その様な傘下意識は甘えにつながっていた。ルーマニアの組織委員会の学生の目をみはる様な活躍をみたとき、学連もその立ち遅れを反省すると共に日本学生スポーツ連合（日本ユニバーシャード委員会）への委員派遣を研究する時期に来ている事を痛感した。

㈡　欧州の学生球界の研究も前述の理由から、その情報の窓口が全くなく資料の蒐集、分析が出来なかった。ブカレストにはいってから、不自由な英語で情報を集める様な状態であった。学生界は、ある意味では、こうした研究が自由に出来る場であるはずだ。学連の組織の中にこうした部門を設け絶えず情報をキャッチし研究して欲しいと思う。

㈢　プレーの面では日本チームの課題は「デイフェンス」にある。体格差に対応出来るデイフェンス、間断無く攻めるオフェンスに耐えるだけのスタミナ、9Mラインの内と外のディフェンスのあり方など研究課題は、枚挙にいとまがない。このあたりで派手な攻撃に比べ、地味な努力のいる防御練習に目を向ける必要性を力説しておきたい。

㈣　学生選手権大会は、余程の条件変更の無い限り、当分の間欧州中心で開催されると思う。日本チームがこれに参加する為には、絶えず時間的、距離的、経済的ハンデイはいつてくる。その点を考慮して、強化合宿も単に技術面だけにとどまらず、生活習慣の異る、外国生活に耐えうる様な精神面での強化を計ってもらいたい。

以上の四点ほど私の立場で気のついた点をあげましたが、日本の学連が世界のチームとして発展する為には、先ずもって学連が組織の立て直しと実力をもつことであろう。

最後に一つ大会のエピソードを披露しておこう。ティミソアラ市で行われたグループリーグ戦を前にユーゴは国境をバスで越えて試合前日に到着し、直ちに練習にはいった。ナショナルメンバーを多く含んだチームなのにその練習(紅白戦)中に数名の選手のディフェンスへの帰りが遅れたとゆう理由から試合をストップさせダッシュをくり返し練習させていたコーチの姿である。とかく技術面に目を向けこうした基本的動作を忘れがちな最近の傾向に大きな警鐘として私の目に映った。

東欧のチームの傾向として決して派手なプレーはしないが、正確な得点につながるプレーヤーにも徹底した基礎練習を求めるところにあると思う。

（全日本学連会長代行）

難しかった個々の調整

脇若　正二

10位という結果に終わったが、約一カ月間の遠征の中で、外国選手とのプレーに対抗して来て、色々な面で勉強が出来た事を大変光栄に思っています。

今回の遠征に際しては、主将として行ったわけですが、その責務について、改めて勉強させられる面が多々ありました。各チームの優秀な選手が集まったけれども、個々の調整がむずかしく、それに短期間のチーム編成なども重なって、今一歩の状態であったような気がします。

今一つの反省材料として、今回の遠征の目的達成を成し遂げようとする時、それに関してのレールがあるはずです。それが今回には確立されていなかったようです。第一に45万円という多額な自己負担から始まり、スケジュール、短期チーム編成、メンバー構成などであります。

しかし、イタリア戦で初の一勝をした時の皆の顔は、今まで以上の輝きが見られ、ここに来てようやく〝一つのチーム〟にまとまった感じで遠征中最高のチーム状態であったと思われます。

日本チームは、攻撃力、戦術では決して他国にもひけをとらないが、ディフェンスでは、課題が多い。上位進出を望むならばまず第一にこのディフェンスであろう。

最後に、今回の遠征で、10大学に友達が出来た事は非常にうれしく思っています。また学生生活最後の正月をルーマニアで過ごし、良い想い出を飾れて、人生に一つの良いくぎりをつける事ができました。（主将、FP・早大4年）

体力、体格差を痛感

岸見　主彦

全国各大学から、それもインカレなど1年1度程度顔を合わせるような間がらの選手ばかりの混成であったが、精神的な和（チームワーク）のよくとれたよいチームだったと思う。

本大会前、デンマーク、スウェーデンに立ち寄り、トライアルゲームを行ったのも、外国のプレーに馴れるという点で効果があった。

デンマーク、スウェーデンのいわゆる北欧タイプのハンドボールは、ポストプレーが多く、ポストマンにボールが通ると、身体があるため、日本のデイフェンスはゴールエリア内に押しこまれるか、後からつかむという反則を強いられ、すぐ7MTを課せられてしまった。

日本が、こつこつとポイントをあげても、7MTですぐ返され、離されてしまうわけで、技術的にはあまり変わらないのだが、やはり彼我の差は「体力・体格」という感じを強めた。

ルーマニアでの本大会で印象深かったのは、ルーマニアの4大学が単独で予選リーグ各組に親善参加したことで、しかも、各チームとも強く、さすがにチャンピオンルーマニアの学生界だと思った。

また、観客がハンドボールを熟知、場内のムードを大いに盛りあげていたのも、すばらしいことであった。（FP・中京大3年）

強引に割りこむ北欧勢

蒲生　晴明

コペンハーゲンの空港は、北欧特有の太陽の日射しがあっても薄暗いドンヨリした感じだった。気温も日本と比較して多少低い程度であったが、一担、室内に入ると暖房設備が完備して居り暖かく過ごす事が出来た。又、6時間位の昼間に対して夜の長いのも北欧特有であろうと思う。

デンマーク、スウェーデンの各試合とも、宿舎から会場までの距離があって、バス・汽車・フェリーなどを利用しての片道8時間、遠い時は10時間もかかっての試合の連続であった。その様な悪条件であったが何れの会場でも「ヤーパン、ヤーパン」の声援で我々を迎えてくれた事には好感を持った。

デンマークやスウェーデンは、日本ディフェンスのオープンスペースを、強引に切り込むポストやカットインが目立った。我々は、それをわかっていながら押し込まれ、7MTや退場をとられて、いいゲームをしながら少差で敗れた事は、くやしくもあり、残念でもあった。原因は、体力とディフェンスの技術の重要な事を痛感した。特に、デンマークでの印象が強く感じたので、この貴重な経験を今後の参考にしたいと思う。（FP・中央大2年）

全日本学生遠征成績

▽第6回世界学生予選リーグD組

ユーゴ　32（17―10、15―11）21　日本
ブルガリア　29（14―11、15―14）25　日本

▽同9～12位決定戦

ランス　29（14―13、15―10）23　日本
日本　22（7―6、15―6）12　イタリア
日本　25（10―15、15―8）23　チュニジア

【最終順位】①ルーマニア⑩日本

▽国際親善試合

ルギ・ルンド　24―19　日本
テレボルグ選抜　28―23　日本
～以上、スウェーデン
日本　23―23　ヘルジンガー
アーハス　29―22　日本
～以上、デンマーク
テイミソアラ工大　28―19　日本
～以上、ルーマニア

喜びと新しい体験の旅

中馬　成一

この遠征中、いろいろな人に逢い、いろいろな国を廻りながらの旅であったが、どれもこれも喜びと新しい体験の毎日だった。

あわよくば、8位内入賞をと意気込んだ初期の目標は達せられず結果は10位という成績に終ったが、それほど残念に思っていません。それは欧州のハンドボールを実際に体験し、いろいろと勉強できたからだ。

大会が始まり、外国選手のプレーはただ驚くばかり。

長身を活かしたロングシュートジャンプして2段、3段と位置を変化させるシュート、あるいは10M以上の遠い距離から高くジャンプして空間で横に移動するシューターなど個性に合ったプレーを一人々々が身につけていた。

それは決勝・ルーマニア対ソ連の試合の中で見ることができた。

恵れた環境の中で育てられた選手層の中から体力・技術・戦術に秀れた選手による多彩な力の攻撃それに技を活かした巧技がいたるところで発揮されていた。

この大会で、日本の最大敗因となり、課題となったのは、ディフェンスの弱さであった。

ロングシュートに合わせて動くポストマンの働きは、ポストにボールが通ると、ディフェンスが抑えておいてもシュートまで持って行く体力と技術には、日本はついてゆけなかった。

このプレーは常に速いボール回しから繰り出されているわけで、少しも動きが止まることはなく、スピーディなプレーから展開されるのである。

頭の中では理解していても、いざ攻撃されると計算通りにはいかず、ポストマンを後から追い駆ける結果になってしまい得点に結びつけられ、終始苦しめられた。

これに対して欧州のディフェンスは、常にボールを持っている者への詰めや当りが強く、自由に攻撃させない固さ、厚さがあった。

強いチームほどディフェンスがよく、そこからすばらしい攻撃が生まれることを示していたのは印象的だった（FP・九州産業大3年）

磨け、日本人独得のプレー

大庭　泰

また一人倒されてしまった。上に乗りかかられてのシュートである。

日本選手の表情には、いかにも防ぐ手段がない、といった苦悩がうかがわれる。

毎回のことであろうが、外人選手との対戦後、常に口ぐせとして伝えられるのだが、やはり、日本人には致命的な欠陥とでも云うべきであろうか。

外人選手のあの一廻りも、二廻りも大きい身体、パワーといった〝壁〟である。

そうした壁を今回も打破することが不可能に終わり、10位という成績を残したのであった。

日本人のスピード、テクニックコンビネーションをもってしても外人はパワー・オンリーで、その三つの総てをも超越しきっているのである。

まったく、今さらながら驚異を覚えさせられる——。

毎回、試合のたびに体格の差が問題になり、それが勝利を得ることのできなかった最大の原因になっている。確かにそれもあろう。が、しかし、それが総てだという のは誤弊が生じよう。

そのいい例が、今回のスペインであった。

日本人とあまり変わらぬ体格で4位に食いこんでいるのは、何か勝つべき要因をチームなり、個人なりが会得していたからであろう。

現在、日本は、大きい選手の確保へと必死であるが、そうしている間にも、世界では2Mプレイヤーが数を増しており、日本人の今の状態から考察してみても、これでは、平行線をたどることは必至である。

そのような流れの中で、日本はいったいどうすべきだろうか。

「トップ・オブ・ザ・ワールド」へ登らしめる足場をどこへ求らしむるべきか、それは前述のスペインの例のごとく、日本人も日本人にしかできない「何か」を会得することであり、例えば、今回使用したスカイプレー、これは、今大会で日本だけがみせた戦法であり結局これが、いざという時、ここという時に役だっていたのである。

このようにスカイプレーにしても、もっと磨きをかけ、また前述したように、他に日本人にしかできないプレーを何人もの者が身につけて戦えば、最大の栄冠の座を獲得するのも、遠い先ではないと思うのだが……。（FP、同志社大3年）

とまどった〝判定の差〟

松本　義樹

本場のハンドボールに初めて接してみて、戸惑いを感じてしまった。それは日本の審判との「笛」の違いだった。オフェンスよりもディフェンス面でその違いを強く感じ、体力不足とともに7MTを招き自滅した形で試合をおとしてしまった。はじめのうちは物足りなく感じるほど、身体接触イコール反則と思われるほどの「笛」だった。手さきでのディフェンスは7MT・警告の対象となり、まるでバスケットボールのような感じさえうけた。必要にかられてボディ・チェックをすれば体力差で押し込まれて7MT、そしてスタミナの消耗という悪循環を繰返していった。混成チームの為、大幅なメンバーチェンジも他チームに比べ少なく、大会関係者が「ベリーロング・ワーク」と言った言葉が印象的だった。

反省はたくさんあるが、特にチームの一人一人が、試合のペースというものを考えもっとチームプレイに徹していればベスト8入りも果せたと思う。試合の中で、やっと点差をつめても、7MTを取られたり、単発シュートを打ったり、チームのチグハグさが目立った。ペースを考えればイタリア戦のようにすばらしい試合ができたのだし、もう少し早く全員の考えがまとまっていたらとも思う。ひと月近い遠征で、自分の考えだけでなく、他の人の意見も聞き、そしてまた自分で考え何かを得ようと一夜を語りあかしたりもした。日本とヨーロッパのハンドボールについて、個人・チームのことについて、みんなそれぞれに何かは、学んだはずだ。一人一人ノートをもって行ったこともよかったと思う。そして、ぼくの最高の収穫は、ハンドボールはもちろん、その他のいろんな面で勉強になった遠征だったことだ。（FP・中央大4年）

再認識した「チームワーク」

布垣　元也

今回の出場選手は、関東学連を中心に、全国各学連から選抜された者で、各大学、各選手のもつ異なったカラーを一つに組み合せていくのは大変なことであろう、と思いました。

攻撃法一つにしても各選手の母体は速攻を主体としたチームもあれば、セット、ローリングオフェンスを主武器としたところもあり一つのチームに造りあげるのは容易ではなく、ボールゲームではいかにチームワークが重要であるかを再認識しました。

遠征の前半はまとまりという面で欠けたところがあり、そのうえ体格的、体力的なハンデ、国際キャリアの乏しさが重なったため、思うような試合運びができませんでした。

チームワークがとれ、攻防の組織がまとまったのはイタリア戦（遠征第9戦）からと云うことができ、予選リーグから連敗して、残り2試合をどうしても勝ちたい、勝とうという気持ちも重なったのが、2勝をあげる大きな勝因となりました。

チームワーク、勝利への執着心の〝偉大〟さをしみじみと味った遠征でした。（FP、中京大3年）

目立つ強引なプレー

能波　羊二

海外初遠征のため不安を感じる一方、本場のハンドボールを少しでも多く吸収しようと期待も大きなものがあった。

北欧におけるクラブとの親善試合は、レフェリー（判定）の相異や相手選手の大きさなどとまどうことが多かったが、遠来の日本チームに対する関心、人気は高く、特にスカイプレーや、速攻はファンの支持をうけたようで、多くの歓声、拍手を浴びた。

本大会は、スウェーデンなどの棄権で出発前の予定とは異りユーゴスラビア、ブルガリアのグループに入り、まず1勝を目標に臨むことになった。我々のグループの会場はブカレストとともにルーマニアでは最もハンドボールの盛んなチミソアラ市の体育館だったが日本では考えられないようなおそまつな床（フロア）であったのには驚いた。観客はゲーム開始30分前には、大きい観客席をギッシリ埋めつくし、ルーマニアのハンドボールに対する熱狂をまのあたりにした。日本ではとても考えられないものであり、なんとも羨しいことであった。対ユーゴ戦は前半善戦したものの後半は前半の疲れから逆速攻などで連取され敗退、第二戦はベスト8をかけて必勝で臨んだがブルガリアの試合はこびのうまさにかわされてしまった。しかし、負けたとはいえ非常にいいゲームで、我々は今後にある程度の自信を得たものである。

ヨーロッパ諸外国のハンドボールはケタちがいの強さ、うまさがあった。特に優勝したルーマニアやソビエト、ポーランド、スペインなどのプレーは日本では一度も見たことのないもので、あれが学生かと思わせるようなシュートや強引なプレーは目を見はらされるものがあった（FP、大阪体大2年）

威圧感じる大型選手

大原　真造

外国のコートに立って、まず感じたのは相手選手の威圧感だ。身体の大きさ、パワーフルなプレー当然のことながら攻撃力はダイナミックで多彩である。

不思議なもので、スタンドから観ていたり、練習をのぞいたりしている時には「うまいなあ」と感心したところがなくても、実戦となると、力と技を巧みに使い分け地味な基礎技術を積みあげたプレイヤーがいかに多いかを知らされた。

日本の成績が低調に終ったのは練習不足による疲れから動きが鈍かったことと、チームワークもはじめのうちは、とれていなかった点にある。

技術的には、攻撃（得点力）はよいとしても、ディフェンス力に欠け、特に、要所で相手の攻撃を支え切れなかったのが大きく響いた。

また、7MTを非常に多くとられたが、これは7MTを誘いこむレフェリングに起因するのか、ヨーロッパで、ヨーロッパチームと対戦する時の課題といえよう。

世界の上位へ食いこむには、やはり守りの強化が必要で、その点を確認しただけでも、勉強になった遠征である（FP、京都産大4年）

熱狂的な地元の声援

藤井　信昭

私にとって初の海外遠征は、良い勉強になりました。結果は不本意なものですが、敗れた試合でも、まったくの完敗でなく、試合に勝って、勝負に負けた試合が少なからずありました。

日本とヨーロッパのレフェリングの違いも痛感しました。特にスウェーデン、デンマークでの試合ではスカイプレーをほとんど着地（＝ラインクロス）にとられた。

また、親善試合、本大会を通じて外人の体格と力を利したポストプレーはほとんど7MTであり、フリースローでした。

私達は外人のロングシュートに対して変則の「6—0ディフェンス」を用いたのですが、試合ではポストを守りきれずに、失点を重ねました。

数々の思い出の中で、強く印象に残ったのは、ルーマニア対ソ連（決勝戦）の熱狂ぶりでした。会場の大体育館は公園のような所の高台にあり、そこへ行く沿道には軍隊の警備員が交通整理にあたる程の観客がつめかけ、一万人以上でスタンドはすでに満員でした。

選手の入場が始まると観客の興奮は最高潮に達し、その応援の激しさは、びっくりしました。そしてルーマニアがチャンスになると手拍子をとり、歌を合唱したりで、レフェリーの笛など、全く聞えません。

この声援に選手は委縮したのか決勝にしては目を見はるようなプレーは見られませんでしたが、両チームとも、パス、キャッチ、フットワークといった基本が確実だという印象を受けましたし、凡失が少ないのはさすがでした。

攻撃におけるミスは必ず失点につながる事を意識し、六人のコンビプレーで攻撃することが大切だと感じました。（GK・大阪体育大3年）

☆……世界学生選手権の特集は今月号で打ち切ります。

モントリオールへの道

ソビエトが国際ハンドボール連盟（IHF）の総会(昨秋)で、IHFは恒に8年先までの国際行事を掌握し、発表するよう要望した、という。

この提案に賛同する国は多く、IHFも善処を約したようだが、この背景には少くとも8年先までの計画を確保したいという姿勢がある。

ヨーロッパ各国の協会は国際行事、ナショナルチームの動向を踏まえて、国内行事のダイヤを組むのが通例だ。

数年前、馬場太郎氏（元日本協会副会長）に聞いた話だが、同氏が西ドイツにハンドボール研究のため滞在中いろいろな内容の試合を見たいといったら「ルブキングの足取りを追えば、その希望がかなえられる」と教えられたそうだ。

ルブキングは、その頃のスーパースターで、なるほど彼の出る試合を丹念について廻ったら10日あまりのうちに西ドイツリーグ2試合、ヨーロッパカップ、国際試合（ナショナルマッチ）を見物できた、という。

彼がいったい、いつ仕事をするのかという議論は別として、いかに大小の行事が整然と組まれているかを物語るものであろう。

このほか、ルーマニアナショナルは500日を一単位とした日程をつねに用意しているというし一昨秋来日したユーゴのナショナルチームのスノイ監督は、1年先までのナショナルチームの予定を教えてくれたものだ。

ソビエトが、IHFへ働きかけたように、8年先までのスケジュールが手に入るようになれば、こうした仕事はいっそう綿密かつ、スケールの大きなものになるだろう。

日本の場合はこうした面が誠にお粗末だ。日本協会の持病といわれたその場当たりの欠陥が今なお全治せず、ナショナルプレイヤーはいささか迷惑顔だ。

荒川理事長は、口をすっぱくして国内体制の強化を強調し、どうにか全国行事は、秋までにだいたい出揃う習慣がついたようだが、ブロック行事とのかね合いなど、まだまだ課題は多い。

それと合わせて、ナショナルチームも、男女それぞれ、せめてモントリオールまでの強化スケジュールを、日時、場所まで決めて発表する研究をしてみてはどうだろう。

すべて、麓から歩み出さねば頂上は極め得ないことを、頂点強化関係者は再認識して欲しい。

市民ハンドボールの芽

今月の論調は、これまでの当欄のトーンとは異る面があるかもしれないと、まず、おことわりしておいて話を進める。

ここ数年、国体に有力実業団の単独参加を見合せるようにしたらどうかという声がでたり、ひっこんだりしている。

公式会議の場で話しあうと賛否半々、結局は現状のまなだれこむということを繰り返してきている。

いろいろと課題の多い国体を、ここらで大手術する必要はあるようだし、そのためには、市民スポーツの集いに向けるのも一方法だと思う。

その手始めに、チャンピオンスポーツのいまや象徴ともいうべき有力実業団の辞退を求めるのもたしかにいい考えだ。

ある県の例。国内屈指の実業団Aが活動していた時、いわゆるクラブチームは数えるほどだった。それが、Aが事情あって姿を消したとたん、クラブがどっと増えた。

ある県の例。国体の開催が決まったが、これまで一般（注・50年度からは成年）にあまり実績がない。そこで県内の有力企業Bにチーム造りを頼もうとしたところ、既存のクラブがこぞって反対、結局、Bチームは生まれず、クラブチームは増加の一途をたどった。

この二つの例は後日談がある。どちらも、国体での成績はさんざん、前者は最近ブロック予選さえ通過できなくなった。県スポーツ界での位置も小さくなりつつある。

県あるいは県体協の予算配分は国体での成績がモノをいうケースが圧倒的に多いらしい。

言葉を替えれば100の市民クラブより、一つの強力チーム、という姿勢が強い。

「有力実業団に国体を遠慮してもらったらどうだ」といいながら自分の県に照らし合わせると、とたんに歯切れが悪くなるのもそのためだ。

あげくのはては「有力実業団を締め出すなら、そのあと、県内の消長を日本協会が面倒みてくれるか」などと、見当ちがいの話も出てくる。

普及と強化—表裏一体の関係だが、少くとも国体に関しては悪循環の印象をまぬがれない。

それを断ち切るためには、日本協会が、国体をどう見るか——以外に解決策はなさそう。

国内スポーツ界の先頭を切ってハンドボール界が、国体を市民スポーツの場に徹しさせる方針を打ち出してみてはどうか。（Z）

★編集部から

□……まっさきにおことわりしご協力願いたいのは、新年度から、またまた年間購読料を値上げしなければならなくなったことです。

9頁所報のとおり

・年間購読料　二千五百円
・一冊頒価　二百五十円

となりました。

皆さんがたの負担が増す一方で心苦しいのですが、機関誌を取り巻くすべての経費が上がっているため、「どうしようもない」というのが実情です。重ねてご理解をお示し下さるようお願いします。

□……女子世界選手権アジア予選の決勝・日本×メイスラエル戦、「観客なしの隠密試合」で開催されました。

日本協会の苦悩を浮き彫りにするできごとですが、読者各位からのご意見が多数寄せられることを期待します。できれば4月号は、その特集にしたいと考えてます。

□……印刷直前にスコダ・ピルゼン（チェコ）の来日中止などあり、大あわて。また、各地の記録欄あてお送りいただいた原稿、およそ10大会分が積み切れませんでした。一カ月お待ち下さい。（Q）

グラノリエルス

迎えうつ大同ら5チーム

スコダ・ピルゼンは突然"中止"

日本協会はこのほど、ヨーロッパ有数の強豪、スペイン男子「バロンマノス・グラノリエルス」を招いて国際親善試合を行うことに決めた。

日程は3月29日から4月8日まで5試合の予定である。

学生中心の陣容

○……B・グラノリエルス来日日程……○

▽来日　3月29日（羽田）
▽第1戦　対熊本市商OB　3月31日午後5時15分（熊本市体育館）
▽第2戦　対大同製鋼　4月2日＝予定
▽第3戦　対岐阜教員　4月3日午後6時（岐阜県民体育館）
▽第4戦　対蒲郡ク　4月5日午後5時30分（愛知・蒲郡市民体育館）
▽第5戦　対静農高OBク　4月6日午後3時（静岡県営草薙体育館）

□……恒例の「新シーズン開幕国際試合」だ。来日チームは過去20年間にスペインチャンピオンになること14回という名門で、昨年はカップリーグの2冠を独占する偉業を遂げておりスペイン球界の文字どおり中心、日本遠征は年ごしの希望だった。

皮肉なことに、今シーズンは出足が悪く、11チームによるスペイン最上級リーグで1月31日現在16戦9勝7敗（残り6試合）の4位連覇は難しい情勢である。

□……スペイン球界そのものの歴史が浅く、選手も若い層が多いのだがグラノリエルスも、外国チームにはめずらしく学生が9人もいる。

主力は、昨春の世界選手権、今春の世界学生両大会に代表となったサガリバイをエースとして、パゴアーガ（世界学生代表）、クロスカラブイグ、プラット、アペラドール、ゴメスら。プラットの老巧な展開力、将来を期待されるカラブイグやゴメスの動きが与味深い

□……最長身者がパイの187で、あとは日本選手と似たりよったり。パワーをベースにしたヨーロッパの中でスペインが対抗していくためには、日本同ようスピードとパスプレーが活路であり、柔軟な身体のこなしから独得の組織攻撃を編み出している。グラノリエルスも当然、技巧的なカラーとみてよい。

□……日本側は、各地のチャンピオンクラス。国際キャリアという点で、グラノリエルスに一歩をゆずりそうだが、緒戦の熊本市商OB（熊城会）は松原、柳川兄（大同製鋼）、田上（本田技研）、東（大崎電気）ら新旧の全日本選手を帰郷させて対戦すると伝えられており、勝利も期待できる。

なお、第2戦に予定されたトヨタ自動車（愛知）が、開催を返上したため、急きょ、全日本チャンピオン・大同製鋼（愛知）が名古屋で対戦準備を進めている。

単独で、どこまで"世界"に通じるか腕試しの場を積極的に求めている大同だけに、興味深い。

B・グラノリエルス		
(K)	パゴアガ (22)	180
	クロス (22)	170
(F)	マシップ (32)	177
	△カラブイグ (21)	173
	パイ (19)	187
	バーニョス (23)	172
	△プラット (28)	180
	フォントウ (21)	181
	サガルサス (18)	180
	○サガリバイ (22)	184
	ラガ (23)	175
	△アペラドール (25)	183
	ポンス (23)	173
	△ゴメス (23)	184
	プヘット (20)	174
	ベーラ (22)	169

団長　ホセ・プラト
監督　ミゲル・ロカ

・（　）内は年金，右の数字は身長
・○印は昨春の世界選手権代表
・△印はナショナルプレイヤー

残念なピルゼン戦中止

□……チェコの名門、スコダ・ピルゼン（昨年度チェコ男子チャンピオン）は、2月18日までは予定どおり来日の意思を示し、日本側も、大同製鋼（3月15日、名古屋）を皮切りに、本田技研鈴鹿（17日鈴鹿）、湧永薬品（22日、大阪）とトップスリーの対戦が確定したのだが、20日になって、突然「来日できなくなった」との電報が舞いこみ、中止された。

ワールドオールスターズの一員であるクレピンダルをはじめ、ヤリイ、ハベルなどミュンヘンオリンピック銀メダルトリオの妙技を期待した関係者、ファンをがっかりさせている。

今シーズンも好調にチェコ1部リーグのトップを走っており、日本協会総務企画部では、同クラブが再び来日を希望してきた場合は改めて招へいの方向を打ち出したい、としている。

日本のハンドボールを世界の最高峰へ!

（協賛者御芳名・順不同）

日本など6ケ国が参加
プレ五輪ハンドボール

モントリオールオリンピック委（MOOC）は、このほど今夏モントリオールで開く国際競技会～プレオリンピック～の日程などを確定した。

実施されるのは、ハンドボールサッカー、水球など19競技で、ハンドボールは、日本のほかソビエト（世界選手権5位）、チェコ（6位）、デンマーク（8位）、アメリカ、カナダの6カ国が参加、9月26日から10月2日までモントリオール、シャーブルーク、ケベックの3都市で行われる。チーム構成は役員3、選手14名。

【日本の日程】9月26日 対ソビエト、28日 対チェコ、29日 対デンマーク、30日 対カナダ、10月1日 アメリカ、

全日本男子・竹野奉昭監督の話 世界チャンピオンのルーマニアが不参加なのは残念だが、この顔ぶれは、強化対策としてまず申し分ない。ソビエト、チェコのどちらかを破って、東欧の壁突破の自信がつけば理想だ。優勝を狙う意気ごみで出場するつもりです。

全日本、愛媛で合宿 全日本男子（モントリオールオリンピック第1次候補）は、2月26日から3月4日まで愛媛県の松山、新居浜両市で、49年度の第7次合宿を行う。

基本練習のほか、地元の武道場で精神面の訓れんが予定されている。

実業団女子5強が対決

全日本実連は、3回目を迎える「NBN（名古屋テレビ）杯争奪全国選抜女子大会」の日程を次のように発表した。

大会は3月21日から23日までの3日間名古屋の愛知県体育館、岐阜・大垣スポーツセンター（23日のみ）に5チームが参加して、リーグ戦で行われる。

当初、ゲストチームとして迎える予定のデンマークのクラブは結局、顔を見せることができず、全日本チャンピオン・東京重機（東京）などトップクラス5チームの国内大会となった。

【日程】▽3月21日午前10時20分、ブラザー工業（愛知）×日立栃木、東京重機×田村紡（三重）、日本ビクター（茨城）×ブラザー工業、日立栃木×東京重機

▽22日 日本ビクター×日立栃木 ブラザー工業×東京重機 田村紡×日本ビクター

▽23日（大垣）日立栃木×田村紡、東京重機×日本ビクター、田村紡×ブラザー工業

各チームは、新たに高校界などから迎えた新人を加えて臨むことになっており、新シーズンの最初の戦力展望となるだけに興味深い試合がつづきそうだ。

男子は4月、東京で対戦

全日本実連は、第2回朝日招待全日本実業団男子選抜ビッグフォアリーグを4月11、12の両日、東京・駒沢体育館で開くことを決めた。

参加するのは大同製鋼（愛知）、三景（東京）、湧永薬品（大阪）、大崎電気（埼玉）の4チーム、いずれも新陣容での初登場、5月末から始まる日本実業団リーグの前哨戦として注目したい。

入場券などの問い合せは三景ハンドボール部（東京都千代田区岩本町3—2—10。電03—861—七六一一）まで。

投書欄 明日への提言

全日本の"国内"試合増やせ

今年は世界選手権（女子）、来年は待望のオリンピックとつづいてナショナルチームの動きもいっそう活発になりそうですがどうも、国内のファンの前にその試合ぶりを見せる機会が少ないようです。

特に、女子はまったく国内で試合をしていないのは残念です例えば、去年の日本—東ドイツ戦の前座として全日本女子を登場させるような企画をねって欲しいものです。

男子も以前のサーキットを復活するなり、壮行試合、歓迎試合を考えて下さい。

世界学生に出た全日本学生もなにか、知らぬ間に発ち、知らぬ間に帰って来た感じでした。

【松戸市・秋山いづみ・高校生】

全日本AとBの対戦を

お願いがあります。ハンドボールもサッカーやバレーボールのように、全日本AとBの滞同試合をできないでしょうか。

関東、近畿、九州、東海など転戦すれば、各企業、個人に頼っている遠征費や、各チームから集めているオリンピック基金のたしになるでしょう。

せっかく、全日本をABに分けているのですから、私たちもその対戦を観たいし、すばらしい「興行」になると思うのですが。

【一ファン＝横浜中央局消印】

☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

海外トピックス

杉山 茂
（NHK運動部）

イスラエル、西独と2戦

モントリオールオリンピックのアジア予選(男子)で、日本の前へ立ちはだかるとみられるイスラエルが、初めて西ドイツへ遠征、同国ナショナルと2試合を行った。

イスラエルと西ドイツは、一昨年まで、公式、非公式を問わず一度も交流がなかったのだが、昨年7月、西ドイツBがテルアビブへ初遠征(=本誌122号)したのをきっかけに〝接近〟。注目のうちにイスラエルが西ドイツへ出かけたものである。

試合は、西ドイツが若手中心のいわばBチームを向けたため接戦となり、特に第1戦は後半なかばまで互角の戦況だったが、最後は西ドイツの順当勝ち。

イスラエルは、1年前、世界選手権アジア予選で日本と対戦(2試合、テルアビブ=本誌117号参照)した時と、だいぶ顔ぶれを変えており、堅守を誇ったGKセラ、左腕の強打レフラー、ピアリク、バンゲロビッシュらベテランが姿を消している。この遠征メンバーがモントリオールを狙うスタッフと考えてよさそうだ。レフラーはスペインリーグで活躍しているといわれる。

▽第1戦（1月19日・ルッセルハイムスポーツホール）

西ドイツ 17（8−7, 9−5）12 イスラエル

得	【イスラエル】	身長		【西ドイツ】	得
0	ルッソ	178	GK	ロウアー	0
0	アハロン		GK	ヴイット	0
0	ホドロフ		FP	ヴァルッケ	3
0	テネンバウム	176	FP	オーリイ	0
1	ヨシフォビッチ	186	FP	エムリッヒ	2
0	カルビ		FP	ウフエル	4
0	ザイク	184	FP	シンゼル	2
2	ホフマン	180	FP	ファソルト	0
4	アルベルマン	178	FP	クルース	3
0	バラク		FP	リンデンバーガー	0
0	ゲルファント	185	FP	ベッチャー	3
5	マドモニ	180	FP	V・オエペン	0
12					17

(注)選手名横の数字は身長(cm)

▽第2戦（1月21日・オペラーセル）

西ドイツ 23（12−6, 11−7）13 イスラエル

得	【イスラエル】		【西ドイツ】	得
0	アハロン	GK	ロウアー	0
0	ルッソ	GK	ヴイット	0
4	ヨシフォビッチ	FP	ヴァルッケ	1
1	グラボビッツキー	FP	オーリイ	1
0	バラク	FP	エムリッヒ	1
0	ウエークス	FP	ウフェル	2
0	テネンバウム	FP	シンゼル	2
1	ザイク	FP	ファソルト	1
0	ホフマン	FP	クルース	6
1	アルベルマン	FP	サルツエル	0
2	ゲルファント	FP	ベッチャー	5
4	マドモニ	FP	V・オエペン	4
13				23

チュニジアも意欲示す
ルーマニアらと国際試合

チュニジア協会による第3回チュニスカップは、昨年くれ同地にチャンピオン・ルーマニアら東欧のトップクラス3ケ国を招き開かれた。

大会3日間とも四千をこすファンが詰めかけ盛況だったが、結局ベストに近いメンバーを送ったチェコが地力を示して初優勝した。

地元チュニジアは、世界学生選手権出場メンバーがほとんど。

ルーマニア 16―14 チュニジア
チェコ 21―18 ユーゴ
チェコ 14―12 ルーマニア
ユーゴ 28―16 チュニジア
チェコ 17―7 チュニジア
ユーゴ 19―13 ルーマニア

【順位】①チェコ②ユーゴ③ルーマニア④チュニジア

ヨーロッパカップ

第15回ヨーロッパカップは新年に入ってベストエイトによる準々決勝が始まった。

2連勝7度目の優勝を狙うVFL・グンメルスバッハ(西ドイツ)は、スパルタカス・ブダペスト(ハンガリー)と対戦、遠征の第1戦を引き分け、波乱かと思われたが、ドルトムントでの第2戦は九千のファンを前に、おなじみのシュミット、ヴェステベ、フェルドホフらが地力を発揮、6点差で快勝、準決勝進出を決めた。

3月来日を予定されたスコダ・ピルゼン(チェコ)は、久々に顔を見せているステアウア・ブカレスト(ルーマニア)と激突、地元での第2戦を引き分けたが、第1戦に大敗しており、惜しくも敗退、ベストエイトに留った。

一方、女子(第14回)は、比較的波乱なく進み、5度目の優勝を狙うスパルタク・キエフ(ソ連)をはじめ強豪が順当に勝ちあがっている。

男女とも準決勝は3月17日までに終るが、男子はグンメルスバッハ×ASK・V・フランクフルトと東西ドイツの対決に注目が集り女子はキエフ×IEFS・ブカレスト(ルーマニア)戦という最大のヤマを向かえる。

▽男子準々決勝・第1戦

VFL・グンメルスバッハ（西ドイツ）15（7－9、8－6）15 スパルタカス・ブダペスト（ハンガリー）
ステアウア・ブカレスト（ルーマニア）20（12－3、8－4）7 スコダ・ピルゼン（チェコ）
ASK・V・フランクフルト（東ドイツ）21（7－10、14－7）17 FK・ハフナルフィアダル（アイスランド）
ボラク・バンヤ・ルカ（ユーゴ）13（5－8、8－4）12 KFUMアーハス（デンマーク）

▽同第2戦

VFL・グンメルスバッハ 19（10－6、9－7）13 スパルタカス・ブダペスト
スコダ・ピルゼン 16（6－9、10－7）16 ステアウア・ブカレスト
引き分け
ASK・V・フランクフルト 30（18－10、12－8）18 FK・ハフナルフィアダル
ボラク・バンヤ・ルカ 23（7－8、16－10）18 KFUMアーハス

▽女子準々決勝・第1戦

FIK・コペンハーゲン（デンマーク）12（5－5、7－5）10 ロコモティブ・ザグレブ（ユーゴ）
SC・ブダペスト（ハンガリー）26（17－5、9－3）8 ZSKAソフィア（ブルガリア）
スパルタク・キエフ（ソ連）15（6－7、9－5）12 ルク・コルゾフ（ポーランド）

▽同第2戦

IEFSブカレスト（ルーマニア）13（6－4、7－5）9 スイフトロエルモン（オランダ）
ロコモティブ・ザグレブ 12（8－5、4－3）8 FIK・コペンハーゲン
SC・ブダペスト 22（9－12、13－7）19 ZSKAソフィア
スパルタク・キエフ 14（8－6、6－4）10 ルク・コルゾフ

（注）ブカレスト×ロエルモンの第2戦は未入電

学生勢が1・2位　ルーマニア女子1部リーグは、12チームの2回総当りで昨秋から展開されてきたが、このほど132試合の日程を消化、テイミソアラ大学が18勝3分1敗で優勝、2位はブカレスト大学だった。ヨーロッパの上位リーグで、1、2位が学生チームというのはめずらしい。

二和家具（岐阜）が台湾で4戦

「岐阜はんどぼうる通信」8号（50年2月）は、岐阜協会所属の男子実業団・二和家具が、昨年11月11日から15日まで、台湾旅行のさい各地で地元チームと親善試合を行い4連勝した、と伝えている。

二和家具（岐阜）29（17－10、12－8）18 高雄師範学院
二和家具 24（11－9、13－6）15 台中選抜
二和家具 21（9－10、12－4）14 樹人高等中学校
二和家具 22（11－3、11－8）11 台北体育専科学校

SGク、東北ムネカタが連勝

各地の記録

第11回東北総合室内選手権は2月8、9日の両日仙台・宮城県スポーツセンターに東北6県の代表男子、女子各12チームが参加して行われた。

男子は、優勝候補にあげられていた東北学院大（宮城）が、準々決勝で青森クに押し切られるなど波乱ぶくみだったが、結局、前年1位のSGク（福島）が、昨秋の東北ミニ国体勝者・七戸ユニオン（青森）を制して2連勝。

女子は、唯一の実業団・東北ムネカタ（福島）が、決勝で善戦する全和洋（秋田）を振り切って3年連続4度目の優勝を飾った。

福島代表の男女制覇は昨年につぎつぎ2度目のこと。

▽男子1回戦（3試合）

下北手ク（秋田）16（6―4、10―3）7 盛岡商高（岩手）

岩瀬農高ク（福島）16（7―5、7―9……2―0、3―2）16 仙台育英高（宮城）

七戸ユニオン（青森）22（10―1、12―4）5 大石田高（山形）

▽同準々決勝

SGク（福島）19（3―3、12―6）9 下北手ク

青森ク（青森）13（6―6、7―6）12 東北学院大（宮城）

七戸ユニオン 27（12―7、15―8）15 大曲富士ク（秋田）

岩手教員ク（岩手）23（13―11、10―6）17 岩瀬農高ク

▽同準決勝

SGク 18（7―5、11―5）10 青森ク

七戸ユニオン 16（10―9、9―11）17 岩手教員ク

▽同決勝

SGク 18（8―7、10―8）15 七戸ユニオン

▽女子1回戦

大曲農高（秋田）13（9―2、4―2）4 盛岡二高（岩手）

青森西高（青森）16（9―3、7―2）5 竹田女子高（山形）

石川高（福島）12（8―1、4―2）3 あすなろク（青森）

米沢女高（山形）8（3―4、5―3）7 花巻南高（岩手）

▽同準々決勝

東北ムネカタ（福島）15（8―3、7―4）7 大曲農高

二華会（宮城）14（6―1、8―3）4 青森西高

全和洋（秋田）14（2―2、2―2……0―1、2―0）5 石川高

涌谷高（宮城）11（5―0、6―1）1 米沢女高

▽同準決勝

東北ムネカタ 19（11―0、8―2）2 二華会

全和洋 5（3―1、2―0）1 涌谷高

▽同決勝

東北ムネカタ 9（3―2、6―1）3 全和洋

女子はクラブ勢上位に

第22回大阪室内選手権は1月15日から大阪市中央体育館で行われ男子は、大阪イーグルスが、湧永薬品を後半になって振り切り優勝

女子は、クラブ勢の争いから大谷クが栄冠を飾った。

▽男子準々決勝

大阪イーグルス 22―8 大山商会

枚方ク 20―14 寝屋川ク

湧永薬品 43―5 上宮ク

クオールドイーグルス 17―11 ポンコック

▽同準決勝

大阪イーグルス 17―14 枚方ク

湧永薬品 35―8 オールドイーグルス

▽同決勝

大阪イーグルス（5―5、6―3）8 湧永薬品

▽女子準々決勝

住学ク 11―1 枚方ク

門真ク 9―5 桃陰ク

大谷ク 4（延・分）4 大体大ク

抽せんで大谷クの勝ち

寝屋川ク 13―9 大和銀行

▽同準決勝

大谷ク 7―1 住学ク

寝屋川ク 8―5 門真ク

▽同決勝

大谷ク 5（4―0、1―2）2 寝屋川ク

小山城南、初のタイトル

▼栃木県高校新人大会（1月・国学院高体育館）

▽男子準々決勝

国学院栃木 20―12 足利商

足利工 13―12 宇都宮工

馬頭 22―4 矢板中央

烏山 20―5 足利

▽同準決勝

国学院栃木 20―6 足利工

馬頭 13―3 烏山

▽同決勝

国学院栃木 8（5―3、3―4）7 馬頭

国学院栃木高は3年ぶり6度目の優勝

▽女子準々決勝

馬頭 14―9 足利女

国学院栃 6―4 栃木女

小山城南 9―2 佐野女

矢板中央 11―3 足利商

▽同準決勝

国学院栃 15―5 馬頭

小山城南 19―1 矢板中央

▽同決勝

小山城南 8（2―3、6―3）6 国学院栃

小山城南高は初優勝

▼神奈川県秋季高校選手権＝新人戦（11月・横浜東高）

▽男子準々決勝

関東学院 10―7 横浜商工

希望ケ丘 12―11 県商工

桐蔭 9―7 立野

高津 20―14 生田

▽同準決勝

関東学院 18―7 希望ケ丘

桐蔭 5―4 高津

▽同決勝

桐蔭 9（4―1、5―5）6 関東学院

▽女子準々決勝

川和 棄権 市川崎

明倫 13―6 大津

京浜横浜 7―1 新城

高津 9―4 平沼

▽同準決勝

明倫 9―3 川和

高津 9―4 京浜横浜

▽同決勝

明倫 15（6―1、9―6）2 高津

▼金沢市（石川）総合選手権（1月実践倫理記念館アリーナ）＝男子のみ

▽準々決勝

金沢大 24―8 金沢市工高

あすなろ 30―6 県工高

県工ク 24―6 金沢商高

金沢市役所 31―9 星稜高

▽準決勝

金沢大 12―8 あすなろク

金沢市役所 22―9 県工ク

▽決勝

金沢市役所 14（8―5、6―7）12 金沢大

女子は広島一女商OG

▼第4回広島県総合室内選手権（1月・広島県立体育館）

▽一般男子1部準決勝
修道ク 31—14 日本製鋼福山
日新製鋼呉 15（延）13 三菱レ大竹

▽同決勝
日新製鋼呉 20（11—6、9—7）13 修道ク

▽同2部決勝
三菱レ大竹OB 27—16 広島教員

▽同3部決勝
自衛隊呉 20—15 呉高専

▽同女子準決勝
広島一女商OG 15—1 進徳ク
広島一女商ク 8—4 山陽女ク

▽同決勝
広島一女商OG 12（6—5、6—1）6 広島一女商ク

▽高校男子準々決勝
呉港 15—6 江田島
修道 18—7 盈進
呉宮原 24—5 城北
呉工 20—3 三次工

▽同準決勝
修道 19—6 呉港
呉工 8—7 呉宮原

▽同決勝
修道 8（5—1、3—3）4 呉工

▽同女子1回戦（2試合）
広島一女商 16—8 呉商
進徳女 9—1 呉宮原

▽同準決勝
山陽女 17—3 広島一女商
進徳女 9—5 呉豊栄

▽同決勝
山陽女 10（4—0、6—3）3 進徳女

群馬教員が4連勝

▼第15回群馬県総合選手権（1月前橋商体育館）

▽男子準決勝
群馬教員 28—22 富岡高OB
前橋工OB 26—13 甘楽ク

▽同決勝
群馬教員 25（17—5、8—10）15 前橋工OB
群馬教員は4連勝

▽女子準決勝
前橋ピジョンズ 20—8 群馬女短大附高OG
群馬女短大附高 6—5 前橋市女高

▽同決勝
前橋ピジョンズ 12（8—6、4—3）9 群馬女短大附高
前橋ピジョンズは3連勝

添上の男女優勝成らず

▼奈良県高校新人選手権（1月・生駒中学）

▽男子準々決勝
天理 11—7 奈良高専
奈良 14—6 榛原
郡山 16—6 東大寺
添上 16—5 畝傍

▽同準決勝
奈良 15—7 天理
添上 19—9 郡山

▽同決勝
添上 7（4—1、3—2）3 奈良

▽女子1回戦（1試合）
群山 5—0 十津川

▽同準決勝
郡山 9—6 一条
生駒 7—5 添上

▽同決勝
生駒 5（2—2、3—2）4 郡山

岐阜教員、二和家具降す

▼第16回岐阜県室内選抜選手権（1月・岐阜県民体育館）

▽男子準々決勝
二和家具 24—12 岐阜大
岐阜北高 18—9 岐阜西ク
岐阜イーグルス 27—7 三洋電機
岐阜教員 23—13 日本耐酸壜

▽同準決勝
二和家具 28—10 岐阜北高
岐阜教員 13—8 岐阜イーグルス

▽同決勝
岐阜教員 14（5—5、6—6、……、2—0、1—1）21 二和家具

▽同女子準々決勝
岐阜ク 7—0 岐阜教員
養老女商高 9—2 リリーズ
県岐阜商高 9—5 三洋電機
岐阜南高 9—3 富田女高

▽同準決勝
養老女商高 12—3 岐阜ク
県岐阜商高 6—5 岐阜南高

▽同決勝
養老女商高 8（6—2、2—2）4 県岐阜商高

クラブ選手権は岐阜ク

▼第1回岐阜県クラブ選手権（12月・岐阜県民体育館）＝男子のみ

▽準々決勝
岐阜ク（岐阜社会人L） 22—9 多治見北ク（東濃）
長良ク（岐阜L） 14—10 東ク（水曜L）
岐山ク（岐阜社会人L） 15—8 市岐商ク（岐阜L）
西工ク（岐阜L） 22—16 斐太ク（飛弾）

▽準決勝
岐阜ク 20—13 長良ク
西工ク 14—11 岐山ク

▽決勝
岐阜ク 12（5—5、7—6）11 西工ク

（注）Lはリーグの略

弘前南と青森西勝つ

▼第5回青森県教育長杯争奪高校トーナメント（1月・弘前市営体育館）

▽男子準々決勝
弘前南 16—7 青森商
鰺ケ沢 25—6 坂柳
野辺地 17—7 三本木
青森 13—7 柏木農

▽同準決勝
弘前南 16—11 鰺ケ沢
青森 10—5 野辺地

▽同決勝勝
弘前南 15（7—3、8—2）5 青森

▽女子1回戦（1試合）
三本木 8—5 七戸

▽同準決勝
青森西 7—2 三本木
野辺地 10—1 鰺ケ沢

▽同決勝
青森西 11（6—4、5—1）5 野辺地

本田技研勢で優勝争う

▼第14回三重県一般トーナメント（1月・津市体育館）＝男子のみ

▽準々決勝
本田技研 35—15 鵜の森ク
高田ク 13—12 自衛隊久居
本田技研B 26—18 爽風会
三菱油化 29—12 明野航空学校

▽準決勝
本田技研 43—9 高田ク
本田技研B 12—9 三菱油化

▽同決勝
本田技研 32—14 本田技研B

高校は四日市勢強味

▼三重県高校新人戦（1月・四日市高）

▽男子準々決勝
津 13—7 津西
四日市工 27—2 海星
高田 15—4 四日市中央工
津工 11—9 四日市

▽同準決勝
四日市工 25—4 高田
津工 11—5 津
▽同決勝
四日市工 22—3 津工
▽女子準々決勝
津女 19—1 亀山
暁 8—4 四日市商
上野 8—5 上野商
四日市 13—2 菰野
▽同準決勝
津女 10—3 暁
四日市 17—3 上野
▽同決勝
四日市 5—4 津女

三宅、男女で上位進出

▼東京都高体連新人戦（1月・国立高ほか）
▽男子準々決勝
早大学院 13—9 国立
府中 9—2 三宅
拓大付 24—6 富士
日体荏原 13—9 小岸
▽同準決勝
府中 11—9 早大学院
日体荏原 11—10 拓大付
▽同3位決定戦
拓大付 25—6 早大学院
▽同決勝
日体荏原 15—8 府中
▽女子準々決勝
三宅 4—0 藤村
桜水商 6—5 四谷商
五商 3—2 吉祥寺女
▽同準決勝
小平 10—5 府中
三宅 5—3 桜水商
小平 7—3 五商
▽同3位決定戦
桜水商 6—2 五商
▽同決勝
小平 7—6 三宅

津山工・津山に快勝

▼岡山県高校室内選手権（1月・岡山県営体育館）
▽男子準々決勝
津山工 12—4 邑久
倉敷工 10—2 操山
津山商 13—6 成羽
津山 17—4 岡山工
▽同準決勝
津山工 13—8 倉敷工
津山 24—8 津山商
▽同決勝
津山工 24（9—7 15—6）13 津山
▽女子準々決勝
真備 15—0 津山
大安寺 9—3 玉野
操山 6—2 岡山女
金川 10—5 津山商
▽同準決勝
真備 10—0 大安寺
金川 7—6 操山
▽同3位決定戦
操山 7—2 大安寺
▽同決勝
真備 8（6—2 2—1）3 金川

児島柏会、巧みな試合

▼岡山県一般室内選手権（1月・岡山県営体育館）＝男子のみ
▽準々決勝
岡山教員 22—8 金川七曲会
倉商OB 14—13 岡山ク
児島柏会 17—9 津山工OB
岡山大 11—5 津山高専
▽準決勝
倉商OB 9—7 岡山教員
児島柏会 13—5 岡山大
▽決勝
児島柏会 15（7—4 8—5）9 倉商OB

高校男子は盛岡商好調

▼第17回岩手県総合室内選手権（1月・花巻市）
▽一般男子1部準々決勝
岩手教員ク 21—18 一関工専
盛岡商友会 15—14 岩手大
▽同決勝
岩手教員ク 19（8—6 11—10）16 盛岡商友会
▽同2部決勝
岩手フェザント・ク 16—13 花巻ク
▽高校男子準々決勝
盛岡商 20—11 盛岡四
水沢 14—9 一関工
盛岡一 21—5 釜石南
花巻北 16—12 生活学園
▽同準決勝
盛岡商 21—6 水沢
花巻北 6（延）5 盛岡一
▽同決勝
盛岡商 13（7—6 6—3）9 花巻北
▽同女子準々決勝
花巻南 6—1 大原商
岩手女 5—4 花巻北
平舘 13—4 釜石南
盛岡二 10—3 花巻農
▽同準決勝
花巻南 6—2 岩手女
盛岡二 9—1 平舘
▽同決勝
花巻南 4（3—2 1—0）2 盛岡二

▼茨城高校新人大会（11月・石岡一、二高）
▽男子準々決勝
水海道一 11—8 笠間
下館一 10—9 磯原
麻生 16—1 緑岡
波崎 9—5 岩井
▽同準決勝
水海道一 12—3 下館一
麻生 27—8 波崎
▽同3位決定戦
波崎 21—7 下館一
▽同決勝
麻生 8（3—4 5—2）6 水海道一
▽女子準々決勝
鉾田二 7—2 潮来
麻生 11—4 石岡二
結城二 11—7 太田二
水海道二 9—4 竜ケ崎二
▽同準決勝
麻生 16—2 鉾田二
水海道二 10—3 結城二
▽同3位決定戦
鉾田二 12（延）10 結城二
▽同決勝
麻生 13（8—2 5—5）7 水海道二

横須賀市協会15周年迎う

▼横須賀市（神奈川）協会創立15周年記念大会（1月・横須賀）
▽一般男子準々決勝
海自教育隊 6—3 海自通信隊
防衛大 16—3 少年工科校B
防衛大B 15—8 神奈川歯大
久里浜自衛隊 17—16 少年工科校
▽同準決勝
防衛大 8—7 海自教育隊
防衛大B 10—6 久里浜自衛隊
▽同決勝
防衛大 10—7 防衛大B
▽女子準決勝
横須賀学院高 19—2 三浦高
大津高 10—2 長瀬ク
▽同決勝
大津高 11—7 横須賀学院高
▽高校男子準決勝
少年工科校 16—3 少年工科校B
横須賀学院 12—11 三浦
▽同決勝
少年工科校 21—6 横須賀学院

▼第1回羽島郡（岐阜）大会（12月・岐阜笠松町民体育館）
▽男子準決勝
岐南ク 22—10 柳津ク
笠松ク 20—19 教員ク
▽同決勝
岐南ク 19—17 笠松ク

合織糸・合織混紡糸

田村紡績株式会社

社長　田　村　正　衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 0593－65－2156（代表）
郵便番号　512

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一二八号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五〇年二月二十五日印刷 発行所 日本ハンドボール協会
昭和五〇年三月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 大代表(467)三二一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価 二百五十円 (年間購読料二千三百円)

攻めるも 守るも

強いチーム。
例外なくオフェンス力とディフェンス力がバランスよくつり合っています。会社の中でも同じこと。臨機応変の攻撃力と完壁の守備力があって、はじめて会社の実績はあがります。
だから、OMRON電卓。最前戦にはハンディ・タイプ、オフィスには卓上タイプ……と6桁から12桁まで、守備、攻撃のポジションに合わせてお選びください。

信頼のOMRON電卓シリーズ

お求めやすい
6桁ハンディ・タイプ

OMRON 60N
¥8,450

8桁%キーつき
ハンディ・タイプ

OMRON 82
¥13,800/ACアダプタつき

8桁メモリつき
充電式の卓上形

OMRON 815D
¥19,800

複雑な業務計算用
12桁卓上形

OMRON 1215
¥44,800

●資料のご請求は本社PRセンタまで　立石電機株式会社　本社／〒616京都市右京区花園土堂町10 075(463)1161大代